

令和4年度 研究紀要

しらかみ

第 29 号

児童生徒の

「分かった、できた、もっと知りたい」を高める授業づくり

(2年次／2か年計画)

秋 田 県 立 能 代 支 援 学 校

発刊に当たって

本校では、令和3年度から2か年、研究主題を「児童生徒の『分かった、できた、もっと知りたい』を高める授業づくり」とし、生活単元学習に焦点を当て、指導計画の改善、ICT機器を活用した授業改善等について取り組んで参りました。1年次は、通年で取り組むことができる単元及び段階的な目標を設定し、繰り返し学習を積み重ねることで、「何ができるようになったか」をこれまでよりも明確に評価することができるようになりました。しかし、より質の高い学びを目指すための学習（指導）内容を考えることや、生活単元学習において、各教科等の目標及び内容、指導段階にどこまで踏み込むことができたかなど、多くの課題が残りました。それらを踏まえ、まとめの年となる今年度は、魅力ある単元設定と学習活動の質の向上と生活単元学習において達成する各教科等の目標及び内容の検討、主体的な学習参加と効果的な学びを促すICTの活用に取り組むことにしました。

本校は、主に知的障害のある児童生徒の教育を行う特別支援学校です。知的障害のある児童生徒の学習上の特性と一人一人の実態等を踏まえて指導計画を立案し、授業として実践しながら、日々評価と改善を繰り返してより質の高い学びを追求しています。そもそも研究は、学校教育目標を具現化するためのものです。研究主題は単なるテーマではなく、一つ一つの授業や取組が、「夢をもち、自らの道を切り拓く、たくましく生きる児童生徒の育成」のために計画され、実践される必要があります。全ての授業に渾身の力を込めて取り組み、その一つ一つを評価・改善していくことで、授業の質が上がり、それにより授業力が向上したと私たち自身が実感できるようになると信じています。そのため、本校では、公開研究会をはじめ、年に数回の研究授業及び授業研究会を行い、先生方は熱心に取り組んでいます。その姿からは、心から児童生徒を思い、自らの力量や質を高めようとする必死さが伝わってきます。その思いを空回りさせず、児童生徒が「分かった」「できた」を実感し、「もっと知りたい」と知的欲求をかき立てるような仕掛けをどれほど考えられるようになったのか、児童生徒の真の姿を捉える確かな目を持ち、子どもの小さな変化を捉えて、機を逃さずにアプローチできる生きた授業を目指して、「学ぶことは楽しい」ということを伝え続ける教師集団でありたいと思います。

本紀要は、この一年の学びの積み重ねであり、校内授業研究会、公開授業研究会でいただいた様々な意見や指導から学んだことをまとめたものです。御一読いただき、多くの皆様から御指導、御助言を賜りますようお願いいたします。

結びになりますが、研究を進めるに当たり、秋田県教育庁特別支援教育課の指導班の皆様から御助言と御協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

校長 佐藤 玉緒



目次

発刊に当たって	_____	1
全体研究	_____	3
各学部の研究		
小学部の研究	_____	1 2
中学部の研究	_____	3 1
高等部の研究	_____	4 9
寄宿舎の研究	_____	6 5
あとがき	_____	7 0
研究同人	_____	7 1

I 研究主題

児童生徒の「分かった、できた、もっと知りたい」を高める授業づくり（2年次／2か年計画）

II 研究主題の設定理由

本校は、令和元年度から、教科別の指導についての研究を2年間実施した。各教科に対する理解を深めながら、主体的・対話的で深い学びの視点を基に授業づくりを行い、複数の教師で定期的に児童生徒の変容を見取り、授業改善や単元構想の見直しを図った。身近で分かりやすく、実生活とつながりのある単元・題材の設定により、児童生徒が主体的に活動に取り組み、授業の中で「分かった、できた、もっと知りたい」という姿を生み出し、深い学びに結び付くようになってきた。この中でICT機器を効果的に活用することが有効であり、職員の中でも授業の中で使ってみようとする意識が高まった。ICT機器は児童生徒や職員にとって身近なものとなり、それぞれの実態に応じて使いこなすことが求められている。

これまでの研究を通して、各教科で学んだことを日常生活や他の学習などで生かすためには、どのような内容を取り上げたらよいのか具体的に考え、指導に当たることができるようになってきた。児童生徒にとって、学校生活を基盤として、学習や生活の流れに即して学んでいくことが効果的である。そこで、令和3年度からは、全校で各教科等を合わせた指導の形態である生活単元学習の授業づくりを考えることにした。

生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験する学習である。児童生徒のどのような力を育成したいのか明確に示し、教科横断的な視点をもって、学習内容を意識的に関連付けることが必要である。また、学んだことが積み重なり、児童生徒の力となるには、「何をどのように学ぶのか」という指導方法を検討・実施することが重要である。授業の中でICT機器を活用するなどしながら、より学びの喜びを感じられるようにしたい。児童生徒の変容に基づいて授業改善を重ねることで、「分かった、できた、もっと知りたい」という姿が多く見られる授業となり、自ら進んで学習に取り組もうとする力を高めることができると考え、本研究主題を設定した。

III 研究の目的

- ・児童生徒が、これまでの学習や経験などを生かしながら、進んで学習に取り組むことができる指導計画の改善を図る。
- ・児童生徒の学びの充実に向け、ICT機器の特長を生かすなどの授業改善をする。

IV 研究仮説

育みたい資質・能力を明確にした目標設定を行い、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりと改善を効果的に積み重ねることで、児童生徒が「分かった、できた、もっと知りたい」という姿で、身に付けた力を生かしながら、進んで課題解決に取り組むであろう。

V 昨年度（1年次）の研究

1 研究内容・方法

（1）児童生徒の目指す姿の明確化

①児童生徒の「育みたい資質・能力」を基にした指導計画

児童生徒の実態から、困難となっている背景を自立活動の6区分27項目を基に考え、「中心的な課題、指導の方針」を設定し、個別の指導計画や年間指導計画を作成した。

②児童生徒の指導計画の目標設定、評価についての見直し

年度初め、夏季・冬季休業、年度末に指導計画の評価と指導内容の見直しを行った。

（2）児童生徒の目指す姿を達成するための生活単元学習の授業実践

①目標の「育みたい資質・能力」の明示

学習指導案に、単元で育みたい資質・能力を記載した。

②主体的・対話的で深い学びの視点で行う授業づくり

令和2年度の研究で活用した「各学部の「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点」（全：資料①）を基に、単元設定や授業づくりに当たった。また、手立ての有効性や改善事項を検討する学部・全校授業研究会、公開授業研究会を実施した。

(3) ICT機器の活用に関する研修

ICT機器について、児童生徒の実態に応じた活用や集団学習での活用を促進することができるように、学部・寄宿舎研究での情報提供やアプリを操作する体験などを行った。

2 成果と課題

(1) 成果

児童生徒の「育みたい資質・能力」を基に、通年で継続した単元を設定し、児童生徒が活動に取り組んだことで、ねらいとした力を段階的に育てることができた。児童生徒が自ら活動に取り組むことが増え、生活単元学習以外の場面でもねらいとした力の成長を確認できるようになった。

①地域にある「人、もの、こと」を活用した学習活動「しらかみの恵みを生かした学習活動」

- ・地域の素材や人材などの地域資源を生かした活動、地域との学び合いを深める活動、地域の環境や校内の自然から学ぶ活動の設定や、地域に貢献する活動を取り入れることで、魅力ある単元が構成でき、学習活動の質が高まった。
- ・学部の友達を招待する、他学部の友達に教える、先輩の姿を見て学ぶなど、学部内や学部を超えた様々な関わりや役割、学習の成果を発揮する機会を設けた。

②学習活動の工夫とICT機器の活用

- ・少人数の活動で各自が役割を果たす、一斉に集まって活動する、成果を振り返り改善するなど、グループ編成や集団の活動を工夫した。繰り返し学習することで、手順を覚えて進んで課題解決に取り組む、友達の意見を参考に改善を図るなど、課題解決に向けた活動への参加が高まり、関わりながら学ぶ姿を引き出した。
- ・手順を示す、調べたことをまとめる、改善点を示して要点を一斉に振り返るなど、タブレット型端末等の活用により、主体的な学びや対話的な学びを促進した。

(2) 課題

生活単元学習の授業において達成する各教科等の目標及び内容について、十分な検討ができなかった。そのため、授業に係る評価の視点についても課題が指摘された。

「しらかみの恵みを生かした学習活動」を基に魅力ある単元を設定し、役割を果たしながら質の高い学びを充実させるとともに、それらを通して、どんな資質・能力を身に付けるのか、各教科等の目標及び内容に照らし合わせ明確にする必要がある。

VI 今年度(2年次)の研究

1 研究内容・方法

(1) 「しらかみの恵みを生かした学習活動」を基にした魅力ある単元設定と学習活動の質の向上

- ・児童生徒の実態に応じて、地域や校内にある「人、もの、こと」を活用した新規、または継続した中心単元の設定
- ・「しらかみの恵みを生かした学習活動」を基にした単元について（全：資料②）の作成
- ・各学部ごとに、単元構成や学習過程の検討会の計画的な実施

(2) 生活単元学習において達成する「各教科等の目標及び内容」の検討

- ・個別の指導計画、年間指導計画の活用による各単元の学習活動と各教科等の目標及び内容との関連付け
- ・「育みたい資質・能力を明確にした学習指導案の改善」（全：資料③）の活用
- ・個別の指導計画・年間指導計画の評価、改善の定期的な実施（教科等部会などの開催）

(3) 学習活動の工夫とICT機器の活用

- ・昨年度(1年次)の成果を生かしながら学習活動の充実
- ・学習への参加を高め効果的な学びを促進するICT機器の活用
- ・ICT機器の活用に関する情報提供や研修の実施(全:資料④)

(4) 全校・学部授業研究会の実施

- ・指導案検討会(目標と指導計画の検討、学習過程の検討)
- ・学部職員による授業のロールプレイ

2 年間計画

	全校研究	学部研究	授業研究会など
4	12日 研究推進委員会① ・今年度の研究案検討 21日 研究全体会① ・今年度研究案提示 ・中心単元の年間計画作成		
5		27日 学部研① ・研究の進め方	
6	9日 研究全体会② ・単元で指導する各教科等の目標及び内容について ・計画訪問の授業づくり	27日 学部研② ・全校研の授業づくりなど	14日 指導主事計画訪問
7			8日 高2 全校授業研究会 14日 中2 全校授業研究会
8	2日 研究全体会③ ・全校・学部研究経過説明	18日 学部研③ ・公開研に向けた研究経過、提示授業授業の確認	
9		26日 学部研④ ・公開研指導助言などを基にした改善案の検討 ・生活単元学習の後期計画	5日 公開授業研究会 13日 中3 部内授業研究会 14日 小3 部内授業研究会
10		28日 学部研⑤ ・改善案の授業実践経過 ・ICT活用研修 ※10月より毎月実施予定	5日 小5・6部内授業研究会
11		25日 学部研⑥ ・まとめに向けた研究の成果と課題整理	1日 中1 部内授業研究会
12		19日 学部研⑦ ・学部研究のまとめ	13日 小3 全校授業研究会
1		11日 学部研⑧ ・学部研究の修正 ・生活単元学習の後期評価	
2	21日 研究推進委員会② ・次年度研究計画案検討 27日 研究全体会④ ・研究のまとめ ・次年度研究案提示 28日 紀要完成		
3		17日 学部研⑨ ・次年度研究修正案提示	

3 成果と課題

(1) 成果

各学部の中心单元では、活動に見通しをもち、進んで取り組むことができるように、毎時の主な学習活動の流れを一定にしながら、次第に課題がレベルアップするよう計画した。こうすることで、児童生徒は活動が分かり、安心して学習に取り組みながら、できることを増やし、友達と一緒に活動に取り組んだり、意見を出し合っただけでよりよい活動にしたりするようになってきた。また、各单元で獲得した知識や技能を次の单元で活用しながら学習することができた。中学部や高等部では、3年間を通して行う单元を設定したことで、次の学年でも身に付けた知識や技能を活用して、様々な場面で応用できる力を育んだ。

児童生徒は、「こんなことができた、分かった」を実感できるようになるとともに、気付きや感想を発表し合うことで、各自の興味や知識の共有を図った。また、友達と一緒に遊ぶ、プレゼントを作って手渡す、要点をまとめて地域に発表するなどの活動を通して、校内外の人に「ありがとう」、「楽しかった」、「すごい」などと言葉を掛けられ、感謝された。これらの経験はより活動の達成感をもつことに結び付いた。これらが、さらなる「人、もの、こと」への興味や関心となり、「活動を続けたい、新しいことに挑戦したい」という姿に結び付いた。

①育みたい資質・能力を明確にした目標設定

各教科等の目標及び内容を基に、学習活動の中で何を身に付けるか考えるようになったことで、児童生徒に育みたい資質・能力を身に付けるための指導が明確にできるようになってきた。既存の行事单元についても、单元を通して育成する各教科等の主な内容を基に学習内容を見直した。クリスマスや七夕などの单元では、季節や行事に関連する言葉や知識も学ぶことができる活動内容を設定した。また、宿泊学習の事前学習では、生物や自然について学ぶ、公共施設の役割や利用規則を基に自分たちの宿泊学習のルールを作成するなどの活動内容を設定した。

②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

地域や校内にある「人、もの、こと」を活用した单元が有効であった。新規单元への期待感には児童生徒が活動に取り組む意欲を高めた。継続单元では、新たな課題に向けた役割をもち、貢献できる活動にしたことで動機付けられ、継続して取り組む励みとなった。その中で、個人やグループなど学習形態を工夫したことで、これまで身に付けた力を応用しながら役割を果たす、友達と相談しながら活動し、よりよい成果を共有するなど、達成感を得ることができるようにした。

小学部では学校での遊びや生活の中で、児童の関心が高いものを单元に設定し、中学部や高等部では地域に出掛けて様々な人と直接やりとりをしながら、新しいことへ興味・関心が広がるような单元を設定した。また、校外学習だけでなく、地域からの依頼を受ける、地域施設の職員の方々から来校してもらい、指導や助言をいただくなど、継続したかかわりを持ちながら発展的に学習に取り組めるようにした。

③効果的な授業改善の蓄積

单元構想や指導案検討、授業のロールプレイを行い、学習過程を検討したことで、教師間の役割分担、教材・教具の改善につながった。導入部分では、目標とめあての整合性を図るとともに、学習計画表を提示しながら授業経過を説明することで、短時間で進めることができた。

児童生徒が課題を解決するために、ICT機器を効果的に活用し、要点を分かりやすく示したことで、次のように、児童生徒が活動に見通しをもって取り組むことに役立った。

- ・分かったことをプレゼンテーションや動画編集のアプリケーション、インスタグラムを使い、写真や文章の大きさ、色使い、構成などを検討してまとめ、地域に情報を発信する。
- ・生徒が自分の意見を表現する手段として、電子メモパッドを活用する。
- ・導入部で具体的なイメージをもつことができるように、活動する場所や対象となる出来事を電子黒板で写真や動画で提示する。

- ・活動の手掛かりや成果の称賛がしやすいように、学習の決まりや話し合いのルールを常に黒板に提示する。
- ・まとめや振り返りの場面で、児童生徒に成果や課題を分かりやすく評価ができるように授業の様子の動画やGoogleFoamsを使ったアンケート結果を I C T 機器で提示する。

(2) 課題

①育みたい資質・能力を明確にした目標設定

単元の中で育みたい資質・能力については、今後も吟味が必要である。各教科等の目標及び内容を基に考えたが、教科横断的に指導する必要があるものが含まれている。毎時の授業の学習活動に沿って、学ぶべきことは何かを考え、単位時間で指導すべき育みたい資質・能力の焦点化を図るようにしたい。

本年度、本校では個別の指導計画の作成に当たり、各教科等の目標及び内容を基に実態把握と指導内容の設定を行った。次年度は同様に評価規準も設定し、適切な指導と評価についての検討を継続していく。授業においても児童生徒にめあてを明確に伝える、友達同士の達成状況が分かり認め合い、評価することができる場面を設定する必要がある。そのためには、自分は何をすべきか分かり、活動に十分取り組むことができる手立てを工夫する。また、その行動を振り返ることができる I C T 機器や学びを記録することができるワークシートの活用などについて検討を図っていく。

②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

地域や校内にある「人、もの、こと」の活用により多くの成果が得られている。今後も新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、活用の工夫を継続する。また、児童生徒が身に付けた資質・能力を生かしながら、進んで課題解決に取り組むために、生活単元学習の指導計画作成の考慮点（全：資料⑥）を踏まえた魅力ある単元構成を検討する。

I C T 機器の活用については、児童生徒の意見や活動成果などの意思表示を容易にする活用を検討する。また、教材の作成や指導に結び付く研修を行いながら、I C T 共有フォルダ等を活用して、それらの情報を共有する手立ての工夫を継続する。

【小学部】

主体的な学びの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心をもって学習しているか。 ・見通しをもって、進んで取り組んでいるか。 ・最後まで取り組んでいるか。 ・自分の学びを振り返ろうとしているか。
対話的な学びの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師に働き掛けたり、働き掛けを受け入れたりしているか。 ・友達や教師とやり取りしているか。 ・友達や教師に注目し、やり方や言葉を模倣しているか。 ・教材に注目し、十分に操作しているか。
深い学びの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだこと、覚えたことを一人で表し、発揮しているか。 ・自分と異なる意見や考えを受け入れているか。 ・新しい考え方や見方に気付き、取り入れているか。

【中学部】

主体的な学びの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心をもって学習しているか。 ・学習活動に見通しをもって、自分から学習に取り組もうとしているか。 ・粘り強く、最後まで学習に取り組んでいるか。 ・自分の学習活動を振り返っているか。
対話的な学びの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・教材に関心を示し、注目し、操作しながら取り組んでいるか。 ・友達や教師の動きに注目し、まねているか。 ・自分の考えたことや感じたことを、友達や教師に伝えようとしているか。 ・自分と異なる意見や考えを受け入れているか。 ・過去の自分の考えを振り返りながら取り組んでいるか。
深い学びの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・覚えたことや学んだことを実践しようとしているか。 ・友達や教師からの異なる意見やアドバイスなどを受け入れ、解決するためにどうしたらよいか、考えているか。(対話的な学びの視点とも共通) ・新たな課題を見出して、解決策やアイデアを考えているか。

【高等部】

主体的な学びの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心をもって学習しているか。 ・見通しをもち、自ら進んで学習に取り組んでいるか。 ・自らの学びを振り返り、次時に生かそうとしているか。
対話的な学びの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもち、自らの考えを相手に伝えることができているか。 ・自分の考えを深めるために、教材に注目し、他者の意見を取り入れているか。 ・友達や教師など他者からの意見に対して、自分の考えをもつことができているか。
深い学びの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを実践しようとしているか。 ・自己評価や他者評価を通して、自らの考えをまとめようとしているか。 ・新たな考え方や見方に気付き、取り入れ、実践しようとしているか。

「しらかみの恵みを生かした学習活動」を基にした単元について

学部・学年 ()

単元名 _____

年間の主な活動内容

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3

活動内容に関連する各教科等の内容

他学年などに協力を図ること、活動の工夫ができること

育みたい資質・能力を明確にした学習指導案の改善

4 指導計画（総時数 ○時間）

小単元（題材）名	目 標	指導する教科等	主な活動内容	時数
○○○○○○○○○ ○○○○○	・○○○○○○○○○○○○○○○ <input type="checkbox"/> ○○○○○○○【知・技】 ・○○○○○○○○○○○○○○○ <input type="checkbox"/> ○○○○○○○○○○○○○○○ <input type="checkbox"/> 【思・判・表】【学・人】	音楽・家庭 国語	・○○○○○○○○○○○○○ <input type="checkbox"/> ○○○○○○○○○○○○○。	○ (本時○・○ /○)
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ・指導する教科等は、「単元を通して育成する各教科等の主な内容」から選択する </div>				

単元を通して育成する各教科等の主な内容

小学部□生活□2段階 エ□いろいろな遊び、道具の後片付け (イ)□簡単なきまりのある遊びについて知ること【知・技】 (ア)□身近な遊びの中で、教師や友達と簡単なきまりのある遊びをしたり、遊びを工夫しようとした□□りすること【思・判・表】
小学部□体育□1段階 A□体づくり運動遊び ア□教師と一緒に、手足を動かしたり、歩いたりして楽しく体を動かすこと。【知・技】 B□機械・器具を使つての遊び イ□機械・器具を使って体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。【思・判・表】
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ・「本時を通して育成する各教科等の主な内容」に下線を引く </div>

下線は、本時を通して育成する各教科等の主な内容

I C T機器の活用に関する情報提供や研修について

10月28日（金） 学部研⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・ Google Formsを使ったアンケートの作り方と集計について ・ 電子黒板を使ったアンケート結果の提示について
11月25日（金） 学部研⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で活用が期待できるiOSアプリの紹介 絵カードタイマー（絵や写真と残り時間を視覚的に表示する） JigsawBox（絵や写真でパズルを作ることができる） 計測（カメラで映し出されたものを計測する） ごじゅーおん（平仮名を読み上げながら文字の入出力ができる） Photomath（カメラで文字を読み取り、自動で計算してくれる）
12月19日（月） 学部研⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「I C T共有フォルダ」の紹介 ・ 学級でのI C T機器を使った授業実践のデータ作成の依頼
1月12日（木） I C T職員研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員のニーズに応じた選択研修 Canva（グラフィックデザインツール）の使い方（16名参加） AirDrop、マークアップの使い方（10名参加） iPadのアクセシビリティの使い方（16名参加） 360°カメラと動画編集の使い方（11名参加）
2月以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションエイド（DropTap、えこみゅ）の紹介

「I C T共有フォルダ」

業務系フォルダ内に作成した。I C Tを授業で活用するに当たって有効なウェブサイトやアプリ等の紹介、校内における様々な実践例のデータ収集を行っている。各フォルダは次のような構成である。

- ・ 能代I C Tチャンネル
YouTube動画で本校職員によるI C T機器活用実践の紹介（ApplePencilや360°カメラの使い方、QRコードの作り方と使い方、オンライン交流の実際についてなど）
- ・ おすすめアプリ等
I C T機器やiPadアプリの使い方の紹介（360°カメラの基本操作、iPadのAirDropやアクセシビリティの設定など）
- ・ おすすめサイト等
全国の特別支援学校や教育センターの実践例やアセスメントに活用できる資料の紹介
- ・ 校内共有教材
本校職員が授業で使っている国語・数学／算数、各プレゼンテーションなどのデータで共通で使えるものを保存
- ・ 校内実践例
I C T機器を活用した各学年ごとの授業実践の紹介

地域や校内にある「人、もの、こと」を活用した魅力ある単元

(全：資料⑤)

小学部

学年	中心単元名	主な内容
1年	つくってあそぼう	おもちゃ作り おもちゃ紹介 遊び場作り
2年	ぼくらげんきな たんけんたい	校内外の散策 校外学習 紹介カード作成
3年	ぴかぴかなんでも 宅急便	季節の飾り作り 制作した物の配達
4年	チャレンジ紙すき	紙漉き 依頼されたものの制作
5年	〇〇新聞をつくろう	畑の成長記録、行事等の新聞作り 紹介
6年	ありがとう 小学部	学部リーダーとしての役割 卒業制作

「小学部がんばり発表会」(7月、2月)

・各学年における生活単元学習の学習成果を、学部内の友達や身近な教師に伝える

中学部

学年	中心単元名	主な内容
1年	中1 L a b	宇宙、自然について見学、体験、発表
2年	中2 お茶プロジェクト	檜山茶のPR
3年	中3 しらかみチャンネル	能代市のPR

高等部

学年	中心単元名	主な内容
1年	能代の情報誌を作ろう	能代の魅力発信
2年	G R O T 隊	三種町、藤里町のPR
3年	能代を満喫しよう	白神ねぎを使ったラーメンの開発

(全：資料⑥)

生活単元学習の指導計画作成の考慮点

生活単元学習の指導計画の作成に当たっては、以下のような点を考慮することが重要である。

- (ア) 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態や生活年齢等及び興味や関心を踏まえたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものであること。
- (イ) 単元は、必要な知識や技能の習得とともに、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等の育成を図るものであり、生活上の望ましい態度や習慣が形成され、身に付けた指導内容が現在や将来の生活に生かされるようにすること。
- (ウ) 単元は、児童生徒が指導目標への意識や期待をもち、見通しをもって、単元の活動に意欲的に取り組むものであり、目標意識や課題意識、課題の解決への意欲等を育む活動をも含んだものであること。
- (エ) 単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、学習活動の中で様々な役割を担い、集団全体で単元の活動に協働して取り組めるものであること。
- (オ) 単元は、各単元における児童生徒の指導目標を達成するための課題の解決に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてのまとまりのあるものであること。
- (カ) 単元は、各教科等に係る見方・考え方を生かしたり、働かせたりすることのできる内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な意義のある経験ができるよう計画されていること。

(特別支援学校学習指導要領解説各教科等編P33)

I 研究の実際

1 「しらかみの恵みを生かした学習活動」を基にした魅力ある単元設定と学習活動の質の向上

- 各学年で中心単元の年間計画を作成するに当たり、児童の実態及び育みたい資質・能力に応じて地域や校内の「人、もの、こと」を活用しながら、支援を減らして難易度を上げる発展的な単元の展開を検討した。

学年	主な単元名	内容
1年	つくってあそぼう	おもちゃ作り おもちゃ紹介 遊び場作り
2年	ぼくらげんきな たんけんたい	校外外の散策 校外学習 紹介カード作成
3年	ぴかぴかなんでも 宅急便	季節の飾り作り 制作したものの配達
4年	チャレンジ紙すき	紙すき 依頼されたものの制作
5年	〇〇新聞をつくろう	畑の成長記録、行事等の新聞作り 紹介
6年	野菜作りにチャレンジ	野菜の栽培と収穫 クイズ作り

- 各学年における生活単元学習の学習成果を学部内の友達や身近な教師に伝える「小学部がんばり発表会」を年間2回（7月、2月）設定した。
- 小学部3年生の全校授業研究会提示授業のロールプレイを学部職員で行い、本時の目標を達成するための学習過程や教師の発問について検討した。また、児童がやる事が分かって集中して学習に取り組むことができるように、個別に応じた教材・教具、環境設定の改善に取り組んだ。

2 生活単元学習において達成する「各教科等の目標及び内容」の検討

- 単元検討会や指導案検討会において、単元で指導する各教科等の目標及び内容の選定を「単元構想シート」（小：資料①）と学習指導要領を基に、授業者、学部主事、副主事、教育専門監と検討した。

3 学習活動の工夫とICT機器の活用

令和4年度小学部生活単元学習共有シートの「生活単元学習の授業作りのポイント」（小：資料②）を踏まえた授業づくりを行った。

- 一人一人のよさや得意なことを生かす、課題に応じたグルーピングと活動や役割を設定した。
- 一定の期間、十分に活動を繰り返しながら、小単元ごとに評価することで、児童が達成感を味わい、次の活動への意欲付けを図ることができる単元計画を作成した。
- 活動の目的が分かるような単元計画や学習予定表を掲示した。
- 活動の目的や内容、目標が端的に分かる導入（めあての提示の工夫）と振り返りの充実（どうしてよかったのか、何をがんばったのか等の明確化）を図った。
- 写真や動画での活動手順の提示や視覚的に分かりやすい活動の振り返りをするために、電子黒板やテレビ、タブレット型端末を活用した。



〈活動の目的が分かる学習予定表〉



〈一人一人のよさを生かす役割の設定〉

II 授業実践

1 各学年の実践について

小学部 1年	
単元名	つくってあそぼう！～みんなで遊ぶ滑り台を作ろう～
目 標	(1) 滑り台作りを通して、やることや作り方が分かり、意欲をもって活動に取り組む。【知・技】 (2) 滑り台作りを通して、身近な素材や材料を使って作りたいものを表現する【思・判・表】 (3) 作った遊具で遊ぶことを通して、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。【学・人】
指導の実際	
(1) 単元設定 ・前単元までは、自分で遊ぶための小さなおもちゃ作りや、ボウリングや魚釣りゲームなどの友達と一緒に遊ぶためのゲーム作りに取り組んできた。作ったおもちゃで遊ぶことや、ゲームを通して友達と遊ぶことの楽しさを感じることができた。また、作ったもので遊ぶことを楽しみにして、制作活動に意欲的に取り組む姿が増えてきた。そのような姿が増えてきたが、他者と関わる経験の希薄さから、友達と関わりたい気持ちはあるものの、関わり方が分からず困っている様子が見られた。そこで、生活科2段階の内容である「身近な人との接し方について知ること」、国語科1段階の「身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること」「伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声で表すこと」について取り扱うこととした。また、引き続き制作活動の楽しさを感じることができるよう、図画工作科2段階「身近な材料や道具を使い、かいたり、形をつくったりすること」についても取り扱い、大型遊具である滑り台を作る活動を通して、制作活動の楽しさを味わいながら、児童同士の関わりや協力場面を増やすことを目指し、本単元を設定した。	
(2) 学習活動の工夫 ・大きな段ボール同士をボンドで貼り合わせる、重く大きな材料や道具を運ぶなど、一人で行うには難しい活動を設定し、児童同士の関わりを促した。 ・使用する材料や道具を自分で準備することができるよう、物の置き方や動線を整理し、視覚的に示した。 ・完成形をイメージすることができるよう、完成のイメージを動画や写真、イラスト等で示した。動画の提示にはタブレット型端末を活用した。	
成果	
・「滑り台」という児童にとって関心が高いものを題材にしたことで、学習に対する意欲的な姿勢が増えた。最初から最後まで活動への参加が難しい児童も、参加できる時間が増えた。 ・全員で一つのものを作ることで、必然的に協力場面が生まれ、児童同士で言葉を掛け、関わり合う姿が増えた。 ・滑り台の階段を巧技台や木製ブロック等既存のものを用いて作ったことで、使い方が分かり、扱いやすいなどの利点から、素材の高さに着目し、並べ方を思考する姿を引き出すことができた。 ・作った遊具で遊ぶ経験を十分に積み重ねたことで、「学級以外の友達にも遊んでもらいたい」「一緒に遊びたい」という言葉が児童から出てきた。 ・他学年の児童を招待し、「楽しかった」と直接言葉を掛けられたことで、「次は〇〇さんと一緒に遊びたい」など、同じ学級以外の友達への意識が高まった。	
課題	
・遊具が大きいため、1時間の中で完成させて遊ぶことができず、前単元まで繰り返し取り組んできた「作る→遊ぶ」の活動の流れを十分に生かすことができなかった。 ・友達を意識し、自分から関わろうとする場面が増えてきたので、相手意識を更に高めるために、「〇〇さんが喜ぶように丁寧に作ろう」など、相手を意識しながら制作に取り組む活動の経験が必要だった。	

小学部 2年	
単元名	ぼくら げんきな たんけんたい
目標	<p>(1) 能代市子ども館やエナジウムパークでの体験を通して、自分の住んでいる地域に関心を持ち、簡単なきまりに従って友達や教師と一緒に行動しようとする態度を育てる。【知・技】</p> <p>(2) 身近な公共施設を利用し、楽しかったことや気付いたことを身の回りの人に伝えようとするを通して、伝わった喜びを味わいながら、自分の思いを伝える力を高める。【思・判・表】</p> <p>(3) 身支度や持ち物の準備など自分のことに取り組もうとする態度や、教師や友達と一緒に公共施設の人や物に意欲をもって関わろうとする態度を育てる。【学・人】</p>
指導の実際	
<p>(1) 単元設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着替えや身だしなみを整える、物を片付けるなど、自分のことに自分で取り組もうとすることに課題がある。一方、新しいことや経験したことがないことに興味・関心を抱き、体験したことを誰かに伝えたい児童が多い。そこで、能代市子ども館やエナジウムパークなどの見学体験を通して、校内で身に付けた友達と一緒に行動しようとする力を、自分たちの住む地域に関心を持ちながら校外でも発揮してほしいと考えた。生活科の1段階の「簡単な身近処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けること」、「身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などに関心をもつこと」をねらい、本単元を設定した。 <p>(2) 学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に興味・関心をもてるよう事前に見学先の映像を児童に提示した。また、「友達と一緒に」「話を静かに聞く」などの約束についても確認した。 ・地域の人との関わりを楽しんでほしいと考え、能代市子ども館の館長に、館内を案内してもらい、館長との触れ合いも大切にしたい。また、後日、館長に来校してもらい、ペットボトルロケットの作り方や飛ばし方を教えてもらう機会を設定した。 ・楽しかったことや気付いたことを身の回りの人に伝えようとする力を育てるため、事後学習では、活動を記録した動画を視聴し、児童から出た言葉や身振りをもとに楽しかったこと、気付いたことを「たんけんたいカード」にまとめた。また、伝わった喜びを感じることができるよう、保護者に見てもらい感想をもらった。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習で校外学習の動画を視聴し、どんな展示があったか画像で確認したことで、「ロケットの発射がびっくりした」「昔の石は、ポツポツしていた」と、見てきたことや感じたことを話す姿や、地震装置の体験を身振りで伝えようとする姿が見られた。 ・ある児童が興味をもったことを、児童全員で共有できるように、画像を使って説明したことで、「男べらぼう」と「女べらぼう」の違いについて理解することができ、能代市の伝統文化についての知識を得ることができた。 ・校外に出て学習し、楽しかったことや気付いたことを振り返り、それを家族に伝えるという単元の流れが、児童に学習意欲をもたせ、伝えたいという気持ちを高め、表現の幅を広げることにつながった。 	
課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを表現するために、児童に応じてスイッチ教材などの機器を活用するなど的手段を保障することが必要であった。 ・児童に何を知ってほしいのか、どんな態度で見学してほしいのか、めあてをより明確にして伝え、可視化できるような評価の工夫をすることで、児童自身が何を知ったか、どんなことが身に付いたかを、気付くことができるようにしていきたい。 	

小学部 3年	
単元名	ぴかぴかたつきゅうびん③～クリスマスのかざりをとどけよう～
目標	<p>(1) 冬の季節の特徴を知り、季節の行事に関心をもつ。【知・技】</p> <p>(2) 材料の形や色などの違いに気付き、使いたい材料を選び配置を工夫してクリスマス飾りを作る。【知・技】【思・判・表】</p> <p>(3) 自分たちで作ったクリスマス飾りを届ける楽しさを感じながら、身近な教師や友達に届けようとする。【学・人】</p>
指導の実際	
<p>(1) 単元設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節の知識や関心が少なく、経験のない学習に意欲的に向かうことが難しいことに課題がある。生活科2段階の内容である「身近な生命や自然について知ること」について取り扱い、年間を通して季節の変化を季節行事や自然から知ることが目的としており、11～12月はクリスマス単元に設定した。 ・図画工作科の2段階の内容である「材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思いつくこと」について取り扱い、クリスマスに関する言葉や飾りについて知り、自分の好きな材料を使って飾りを制作する活動を通して、作りたい飾りのイメージをもって材料を選ぶことが制作に気持ちを向け、自分なりに工夫する姿につながると考えた。 ・制作物を届ける活動を毎時間設けることで、他者との関わりに喜びを感じ、「もっと作りたい」「もっと届けたい」という制作への動機付けになると考えた。生活科2段階の「身近な人を知り、教師の援助を求めながら挨拶や話をしようとする」ということについて取り扱い、他学年の友達の名前や顔を身近に感じることや他者と関わろうとする態度を育てたいと考え、本単元を設定した。 <p>(2) 学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスについて理解を深めることができるように、クリスマスに関する音楽を聴く場面やイラストや写真、飾りの実物を見る活動を設定した。 ・見通しをもち、児童が自ら活動に取り組むことができるように、1単位時間で制作し、次時に届ける活動を繰り返した。 ・使用する材料や用具を自分で選択し準備できるように、材料置き場から児童の興味がある材料を自由に持っていくことができる場面を設定した。また、その際、必要な分量を持って行くことができるように、トレーに仕切りをつける、小分けに材料を提示するなど工夫した。 ・制作場面の様子や、友達や教師とのやりとりを見て振り返ることができるように、教師がiPadで動画や写真撮影をした。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して季節の行事にふれることで、この単元では「12月にクリスマスがある」、「現在が何月」など季節の移り変わりを、カレンダーを見て意識するようになった。 ・楽しみにしているクリスマスの飾りを好きな材料を使って制作したことで、作りたいもののイメージを制作物に表出することができるようになってきた。 ・毎時間、制作し届ける活動を繰り返すことで制作に見通しをもち、制作が終わると「届ける」と児童自ら話し、宅配便の衣装を自ら着るなど、意欲的に取り組むことができるようになってきた。 	
課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・「新しい素材を使ってみよう」と思えるような、魅力的な素材や題材設定をする。 ・教師が近くで一緒に制作を行うことで、安全面に配慮したはさみの使用方法や接着剤の適量など、適切な使い方の見本を示す。 ・「〇〇さんが△色が好きだから、△色の飾りを作ろう」など、相手を意識した材料の選択につながるように、プレゼントする相手分かる動画や掲示物を取り入れる。 	

小学部 4年	
単元名	チャレンジかみすき②～すてきなかみをとどけよう～
目標	<p>(1) 紙すきに繰り返し取り組むことで手順や自分の役割、道具の安全な使い方を覚え、一人で取り組む。【知・技】</p> <p>(2) 分量を守ることや丁寧に制作することできれいな紙ができることに気付き、お客さんが喜ぶことを楽しみに紙すきをする。【思・判・表】【学・人】</p> <p>(3) 制作活動や注文活動を繰り返すことで、丁寧な話し方や物の受け渡しの仕方が分かり、友達や教師とやり取りをする。【思・判・表】【学・人】</p>
指導の実際	<p>(1) 単元設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 前単元で牛乳パックを使用した紙すきの方法を知り、繰り返し取り組んだことで手順を覚えることができた。制作活動への興味・関心が強く、制作を最後まで楽しむことができる一方、友達と一緒に制作活動をする、誰かのために制作をするという意識をもつことに課題がある。そこで、生活科の3段階の内容である「集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること」、算数科の2段階の内容である「ものとものを対応させることによって、ものの同等や多少が分かること」「長さ、重さ、高さ及び広さなどの量を、一方を基準にして比べることに関心をもったり、量の大きさを用語を用いて表現したりすること」について取り扱い、自分の役割に最後まで取り組んだり、相手に喜んでもらうことを楽しみに活動したりする姿を目指し、本単元を設定した。 <p>(2) 学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の役割が分かって学習に取り組めるように、紙すきの工程を3つの工程に分けて分担し、全ての工程が終わると1枚の紙が完成するようにした。 相手意識をもって制作に取り組むために、活動の流れを、注文を取る、紙すきをする、紙を届けるとした。 自分たちの頑張りによって、相手が喜んだと実感できるよう、紙を届ける時に紙すきの様子を動画や実演で見ってもらう時間を設定した。 材料の分量が分かって一人で取り組むために、道具に印を付ける、スプーン一杯にするなど分かりやすい基準を設けた。 学習のめあてに対しての振り返りができるように、全体のめあてを伝えた後に、それぞれの頑張りポイントをイラストと文字で提示した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 頑張りポイントを個々に分かるようイラストや文字で視覚的に伝えたことで、振り返りの場面では、「きれいな四角になるように指で穴を開けないように頑張りました。」と気を付けるべき点を自分の言葉で表現するようになった。また、相手意識をもたせるために、お客さんの顔写真を提示することで、相手意識をもち、「〇〇先生がにっこりしていた」と発表できるようになった。 道具や分量に分かりやすい印や基準を設けたことで、自ら制作をすることができた。繰り返し取り組んだことで分量を意識し、多く入った水を捨てる姿も見られた。 穴の開いた紙になったとき、きれいにできた紙を提示して「〇〇さん、どっちがうれしいかな」と質問することで、頑張りポイントに気を付けて紙すきをすることができた。 紙すきの工程を分担したことで、「〇〇さん、お願いします」や「どうぞ」と言葉を添えて両手で渡す姿が見られた。そこでのやり取りが、紙を届ける際にも生かされ、「どうぞ」と言葉を添えて両手で手渡すことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 制作活動の工程を分担したことで、自分の頑張りできれいな紙になったという実感が薄れてしまった児童もいる。それぞれの頑張りがどこに生かされているのかを、子ども達に分かるように伝える必要がある。 子ども達同士で認め合えるよう、振り返り場面でお互いの頑張りを見合い、評価することができるような発表の仕方にする必要がある。

小学部 5年	
単元名	学校祭新聞をつくろう
目 標	<p>(1) 自分の役割が分かり、友達と協力して新聞づくりをする。【知・技】</p> <p>(2) 学校祭で楽しかったことや伝えたいことを、写真やイラストを手掛かりに考えたり選択したりして表現する。【思・判・表】</p> <p>(3) 作成した新聞を発表する活動を通して、身近な相手に自分から働き掛けたり自信をもって発表したりする。【学・人】</p>
指導の実際	
<p>(1) 単元設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の言葉による指示や視覚的な情報と友達の行動を見て活動に向かうことができるが自分の行動に自信がもてず、自分から行動することや継続して学習を行うことに課題がある。また、経験したことを伝えたいという思いはあるが、どう表現したらいいか分からず、控えてしまう様子がある。そこで、友達と一緒に経験したことについて、自分の考えを表現したり、友達の考えを聞き共有したりする機会が必要であると考えた。生活科の3段階の内容である「集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること」、国語科の2段階の「体験したことなどについて、伝えたいことを考えること」「経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること」について取り扱い、自分から友達に働き掛けたり、自信をもって生活したりする姿を目指し、本単元を設定した。 <p>(2) 学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割が分かって学習に取り組めるように、新聞づくりの活動を3つのグループで分担し、各々で作成したものを1枚の新聞にまとめる工程にした。 ・見通しをもち自ら学習を進めるように、新聞づくりの記事の内容が変わっても、主な学習活動は大きく変更せず、各児童の課題をステップアップしていく学習活動とした。 ・自分から発表できるように、映像や写真を見て感じたことや気付いたこと、自分の頑張りや友達の発表を聞いてよかったことなどを毎時間発表する機会を設定した。 ・たくさんの人と関わりがもてるように、作成した新聞を廊下など、より多くの人目に触れる場所に掲示した。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> ・主な活動を一定にし、グループでの学習を主軸として授業を構成することで、児童が見通しをもち、安心して活動に向かうようになった。少人数で学習を進めることで、児童同士での関わりが増え、新聞づくりに関する児童からの発言が増えた。また、グループ内で役割分担して取り組むなど、協力し合う姿が増えた。 ・発表する機会をもつことで、自分で頑張ったことのほかに、作った新聞のよいところや友達と一緒に頑張ったことなど、これまで作った新聞と見比べながら考えて発表する姿や積極的に発表する姿が増えた。 ・前時までに作成した新聞を用いて振り返ることで、完成のイメージをもち、新聞をどのように作りたいかについて、積極的に意見を出す児童が増えた。 	
課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・どのような新聞を作りたいのかを具体的にイメージし、意欲的に学習に向かうように、書籍やタブレット端末を利用した調べ学習などを取り入れる必要があった。 ・児童が自信をもって考えたことや工夫したことなどを発表できるように、各児童の活動中の様子や作成したものなどを映像で振り返ることができるようにする。 	

小学部 6年	
単元名	やさしいクイズをつくろう
目標	<p>(1) 野菜クイズを考える活動を通して自分たちが育ててきた野菜の特徴を知る。 【知・技】</p> <p>(2) 友達と協力して野菜クイズを作る活動を通して、野菜の特徴について知ったことや気付いたことを表現する。【思・判・表】</p> <p>(3) 他学年に野菜クイズを発表する活動を通して、友達とやりとりしたり、クイズの出し方を工夫したりしようとする。【学・人】</p>
指導の実際	<p>(1) 単元設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 今まで育てた経験のない野菜の中から、にんじんとズッキーニを選び、種まきや苗植え、水やりや雑草取りなどの世話を継続して行ってきた。そして8月から9月にかけて収穫の喜びを味わうことができた。次に、栽培から収穫までの様子を新聞にまとめ、なすを育てた5年生と新聞の内容を紹介し合った。 友達が育てた野菜に興味を示していたが、それぞれの特徴について具体的に言葉に表して発表する児童は少なかった。実の色や形の印象は残っているものの、その他の特徴について言葉で表現することに関して曖昧であると思われる。種の形、葉や花、実の色や形の観察、手触りなどを一つずつ体験し、言葉に表すことにより、自分たちが育てた野菜の具体的な特徴を知ることにつながると考える。その表現方法として、野菜の特徴の中で、目で見て分かりやすい特徴や手触りなど、児童が体験して分かったことをクイズにしていくことで、具体的な特徴を押さえていくことができるのではないかと考えた。 生活科の2段階の内容である「身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとする」、図画工作科の2段階の内容である「身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくったりすること」について取り扱い、クイズの作成と出題を通して野菜の特徴に触れる活動を繰り返すことにより、自分たちが育てた野菜に愛着をもち、具体的な特徴を知ることができるのではないかと考え、本単元を設定した。 <p>(2) 学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜の特徴について五感を使って感じ取り、答えの作成に生かすことができるように実物を用意した。 3種類の野菜の特徴について比較や確認ができるように、花の色や葉の形、断面図等の特徴をまとめた一覧表を掲示した。 クイズ作りの活動に見通しをもち、進んで取り組むことができるように、クイズを「作る」「出し合う」を繰り返す活動を設定した。 児童主体で問題文を作成することができるように、野菜クイズの例文を準備した。また前時までに作成した問題文を参考にしよう助言した。 問題文の言い方や答えの提示の仕方など相手に分かりやすく伝えることができるようにクイズを出し合う様子を動画で撮影し、振り返りに生かした。 <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 5年生と一緒に活動することによって意見交流の場が広がり、野菜クイズの内容や出題の工夫、発表の練習に意欲的に取り組むことができた。 3種類の野菜の花の色や葉の形、種の特徴を一覧表で比較することにより、それぞれの野菜には様々な特徴があることに気付き、他の野菜についても調べてみたいと興味や関心を高める姿が見られた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 制作活動の際、必要な道具の選択や準備を自主的に進めることができるように、授業者の位置や言葉掛け、手掛かりとなる教材の工夫について吟味する必要がある。 野菜クイズの作成を児童主体で完成させていくグループ、実物にじっくり触れ、特徴を捉えるグループ等、児童の実態からグルーピングを検討していきたい。

2 授業研究会について

令和4年度 第3回 全校授業研究会 プレ授業研究会	
期日	令和4年9月14日(水)
学年・単元名	小学部3年「ぴかぴかたつきゅうびん②～あきのかざりをとどけよう～」
話合いの要点	<ul style="list-style-type: none"> ・全員に共通して、振り返りの際に確認できるめあての設定をする。 ・児童が分かって取り組める教材・教具の工夫、場の設定、教師の役割(立ち位置、働き掛け)を検討する。 ・掲示物の活用方法等を検討し、導入をシンプルにする。 ・制作場面での即時評価や振り返り場面で、教師による意味付けを行う。
指導助言 (教頭 佐藤圭吾)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が参加している場面と参加していない場面を比較し、合理的配慮と自立活動の視点で授業づくりをし、その上で教科の指導に迫っていくとよい。 ・教材・教具について、分かりやすさ、使いやすさ、出来のよさの視点で工夫する。図と地のコントラストを工夫すると児童にとって分かりやすい。 ・自己決定する機会や、やりとりをする機会を作り、「こんな色になったね」などと教師が意味付けするなど、児童の言葉の理解を補っていきたい。

令和4年度 第3回 全校授業研究会(小:資料③)	
期日	令和4年12月13日(火)
学年・単元名	小学部3年「ぴかぴかたつきゅうびん②～クリスマスのかざりをとどけよう～」
グループ協議で出された改善の要点	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもって制作に取り組むことができるように、相手の好きなものや色などを知る機会など、手立ての工夫をする。 ・めあての「材料を組み合わせる」がイメージしにくいのではないかと。より分かりやすいものにする事で、児童の満足感も高まる。 ・全体目標は「クリスマス飾りを4年生に届けるために自分で選んだ材料を組み合わせる」なので、個別の目標は教科の視点を踏まえて設定することで、生単と教科のよさが生きる授業になる。
指導助言 (秋田県教育庁特別支援教育課 指導主事 工藤智史)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が「もっとがんばろう」という姿になるためには、何のために本時の学習を行っているか、自分の活動や役割に意味付けできることが大切である。そのためには、「何のために活動しているのか」という単元全体の視点と「本時は何を頑張るのか」という二つの視点で授業づくりを行う。 ・課題の難易度を上げていくために、繰り返しの中で、できるようになったこと、次に挑戦させることについて小単元ごとに評価し、手立ての改善を図るとよい。児童の新たな気づきを促したり、工夫を評価したりしながら、活動の質を上げていく。 ・今回の授業は、図画工作科の表現や鑑賞、国語科の内容とも関係している。どんな資質・能力を身に付けてほしいのか、そのためにどんな各教科の目標や内容と関連させていけばよいのか、さらに検討するとよい。



〈これまでの学習経過と本時の学習内容が分かる単元計画表を使った導入〉



〈児童が一人で取り組めるように同じ種類でまとめ、選びやすくした材料置き場〉

Ⅲ 成果と課題

1 成果

(1) 育みたい資質・能力を明確にした目標設定

- ・「単元構想シート」（小：資料①）を用いて、単元を通して育成する資質・能力を各教科等の目標及び内容や個別の指導計画と関連させながら検討したことで、本時の目標をより具体的な姿として捉え、学習活動の精選や、児童の気付きを促す教師の発問、教材・教具の工夫等が整理され、児童が目標を達成する姿につながった。
- ・単元を通して育成する資質・能力を各教科等の目標及び内容を基に検討したことで、育みたい資質・能力の次の段階を想定し、発展的な単元の展開がしやすくなった。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

- ・教師がタブレット型端末や電子黒板などのICT機器を活用して、写真や動画で要点を分かりやすく示したことで、活動の要点が分かり、ゴールのイメージをもち、最後まで学習に取り組むことができた。また、学習の様子を写真や動画で見ることや児童自らが動画を作成することで、学んだことを言葉にするなど、具体的に振り返ることができた。
- ・児童の課題に合わせたグルーピングの工夫により、児童同士が協力する姿や、新たな工夫を思いつく姿が見られるようになった。
- ・児童の実態に応じて、興味・関心のある地域や校内の「人、もの、こと」を活用し、児童同士や校内、地域の人と関わるができる単元を設定したことにより、児童の関心や意欲を高め、主体的に活動する姿に結び付いた。また、校外学習や地域の人を招いた場で、関わった相手から直接評価を受けたことで、「次はこの人と一緒に活動したい」と話すなど周りの人へ関心が向き、相手に伝えようとする意欲の高まり、表現の幅を広げることにつながった。
- ・7月の「小学部がんばり発表会」では、1年生が作ったおもちゃで遊んで、楽しかったことを伝えたり、4～6年生の宿泊学習の発表を見てシーカヤックのパドルの動かし方をまねするなど、お互いの発表を見る、聞くことで、その活動に興味をもち、友達の関わりを深めながら学び合う様子が見られた。
- ・学習の成果を発表する場を、学部の発表会だけでなく、校外学習先や、地域の人を招いた場に設定したことで、学んだことを発揮し、できるようになったことを自分自身でも実感することができた。

(3) 効果的な授業改善の蓄積

- ・学部職員で、研究授業の単元構想や指導案検討、授業のロールプレイを行うことで、目指したい姿を引き出すための学習過程、教師間の役割分担の工夫、教材・教具の改善につながった。導入部分では、目標とめあての整合性を図るとともに、児童が注目しやすいめあての提示をした。展開部分では、めあてを達成するために、児童ができるだけ一人で取り組めるような教材・教具の改善、実態を踏まえた役割の工夫などをした。まとめ部分では、振り返りの視点を絞るために教師の発問を吟味した。また、児童が学んだことを実感できるよう、発表の場面で教師が児童の活動や気持ちを言語化して伝えたことが、自ら発表しようとする意欲付けとなった。
- ・授業作りを進める中で、自立活動の目標や評価を教師間で共有し授業を行うことで、環境の整備が進み、適切な人数の教師の配置や立ち位置、児童が自分から取り組める導線や視覚的支援の工夫など、過不足のない支援ができるようになった。これにより、児童が見通しをもち安心して授業に参加することにつながった。

2 課題

(1) 育みたい資質・能力を明確にした目標設定

- ・児童の発達段階や障害特性によっては、育みたい資質・能力を捉える際に、各教科等の目標及び内容とともに、自立活動の目標も踏まえた考え方が必要である。
- ・育みたい資質・能力をより明確にして目標設定をすることができるよう、各教科等の目標及び内容を基に、全体や個別の目標を検討できる「単元構想シート」の改善を図る。
- ・児童が学んだことを実感し、振り返り、次に生かそうとする姿を育てるために、1単位時間において育む資質・能力の精選を図るとともに、児童がイメージをもてるめあてを設定し、評価の仕方を検討する。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

- ・児童が自分の意思を発信しやすくするための支援ツールとして、スイッチ教材やICT機器の活用を推進していく。また、教師間で実践の効果を評価し、共有する研修の場を設定する。
- ・自分たちの活動が誰かのためになり、役に立つ喜びを児童がより実感できるように、相手意識をもたせ、活動の目的が分かるように伝える工夫が必要である。

単元名：ぴかぴかたつきゅうびん③～クリスマスかざりをとどけよう～

目指す姿	
わかる、できる姿	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみや画材などの用具をなるべく一人で使用し、制作する姿 ・自分の役割が分かり、制作に取り組む姿 ・身近な先生との接し方を知り、挨拶ややりとりをしようとする姿
もっと知りたい姿	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な素材に触れることや様々な活動の経験を増やし、自分からやりたい活動を選択する姿 ・活動の内容が分かって、自分から活動に向かう姿

【知識・技能】
何を理解するか、何ができるか

単元の目標	(1) クリスマスのイラストや写真からクリスマスの飾りを作ることが分かり、手順に沿ってできるだけ一人で毛糸やはさみ等の用具を作る。【知・技】【思・判・表】	【思考力・判断力・表現力】 分かったこと、できたことをどのように使って、考える、試す、工夫する、表現するか
	(2) 自分たちで作ったクリスマスの飾りを、身近な先生に届けることが分かり、伝えやすい方法で相手に伝え、届けようとする。【学・	【思考力・判断力・表現力】 「知・技」、「思・判・表」の力をどう働かせながら、自分から学ぼうとするか、学びを実感するか

単元について・指導について	<ul style="list-style-type: none"> ・前単元は秋の季節を意識した単元（「あき」の木作り）だった。秋の色調・植物・果物を知り、合う色を選択し、トレーシングペーパーに絵の具で色付けすることや、毛糸を巻いて切ることで毛糸玉を作ることができた。本単元は冬を意識したクリスマスを中心とした単元とした。 ・前単元では毛糸玉をそのままアクリル板に貼ることで表現につなげていた。本単元は布の穴に毛糸を通し結ぶことでつなぎ合わせることや、布に貼ることで経験の幅を広げてほしい。 ・前単元までで制作したにじみ絵やトレーシングペーパーに色付け、毛糸玉などの中から好きな制作方法を自分で選んで活動してほしい。 ・活動の見通しをもつことや前回までの活動を児童が写真で振り返ることができるように、単元計画表を提示する。 ・身近な先生に「届ける」ことが意識できるように、動画で届け先の先生から頼まれる活動を設定する。 ・児童が選んだ色や形、活動を、教師が言葉や身振りで表現することで、児童の意欲や行動の意味付けにつながるようにする。 ・やりたい活動や使いたい素材を児童が自分で表現できるようにイラストカードや写真カードを提示する。 ・注目する点ができるように、実物投影機やモニター、iPadを使用できる環境を設定する。 	<p>指導する各教科等の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図画工作 ・生活科 <p>本単元で特に学ぶ内容について</p> <p>ICT、しらかみの恵みを生かした学習の視点</p>
---------------	---	---

1 生活単元学習の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・行事や学部や学級のテーマに応じた実際的な活動を繰り返す中で、自分の役割を知り意欲的に活動に取り組んだり、「できた」という達成感を味わい自信をもって活動したりする力を高める。 ・異学年、他学部、地域の方などさまざまな集団での活動に取り組み、さまざまな人との関わりを広げるとともに、目的を達成するために仲間と力を合わせて活動する。 <p>【学部重点に沿って育てたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○積極的に学習に取り組もうとする態度 ○周りの人に自分から関わろうとする力 ○友達と協力して問題を解決しようとする力

2 年間指導計画立案の留意点

○学部合同学習の設定	「様々な人とのよりよい関わり」と「主体的な活動」をねらいとした異学年での学習活動の設定 ・農業技術センターとの交流に関する単元（1～6年） ・新入生を迎える会、宿泊学習、学校祭、卒業生を送る会等
○地域とつながりのある活動	農業技術センター、能代市農業振興課との交流活動の継続 ・さつまいもの苗植え、収穫、収穫祭の継続、学校畑の活用 ・市のイベント等に生かせる単元の実施
○学部合同生単と学級生単	学習のテーマに沿い、学部合同で取り組む時期・時間割を計画的に設定する。 ・7月、2月 学部合同単元(小学部がんばり発表会) ・4～6月、9月、11～12月、1～3月 学級単元 ・他の時期は行事単元(運動会、宿泊学習、修学旅行、学校祭等)
○学級での学習活動	学習のねらいに応じて、公共交通機関や地域の物的、人的資源の活用（木カフェとのつながり、買い物学習、地域の先生や地域に学びに行く等）を計画的に実施し、学習を積み重ねる単元の設定

【各学年のキーワード及び指導内容の例】

1年	学校に慣れる・学校を知る	学校教育の入門期→仲間作り、各行事を大切に取り扱う
2年	友達と一緒に活動する	学校生活に見通しをもち始めた時期→「一人でできた」を積み重ねながら、周囲に意識を向けさせる
3年	高学年を意識して	低学年のリーダーとしての参加態度を意識していきたい
4年	高学年として態度や学習に慣れる	集団や学習の変化への対応
5年	次期リーダーの育成	家庭科的内容も入ってくる時期
6年	中学部を意識して	作業的な内容も意識したい

3 生活単元学習の授業づくりのポイント

単元構想	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の安心感と活動への見通しを考慮した、積み重ねの学習活動 ・役割や学習活動を通して様々な人と関わり、「できるようになった」「できた」の実感がもてる学習活動 ・「自分たちが学んだこと、楽しんだことを、みんなにも伝えよう」という子どもの発信につなげる動機付け ・「もっと知りたい、やってみたい」という児童の思いを高め、より学びを深められる発展性のある学習活動 ・継続的な単元の評価と改善
------	---

<p>単元の指導 計画や授業 での観点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴールをイメージできるような導入の活動設定 ・一人一人の良さや得意なことを生かす、課題に合わせたグルーピングの工夫と活動や役割の設定 ・一定の期間、十分に活動を繰り返しながら、小单元ごとに評価を受けて達成感を味わい、次への意欲付けを図る単元計画 ・活動の目的が分かるような単元計画や学習活動の掲示 ・活動の目的や内容、目標が端的に分かるような導入の工夫と振り返りの充実 (めあての提示の工夫と、どうしてよかったのか、何を頑張ったのか等の明確化)
---------------------------------	--

小学部 3 年 生活単元学習 学習指導案

日 時 令和 4 年 12 月 13 日 (火) 10 : 40 ~ 11 : 25

場 所 小学部 3 年教室

授業者 豊田里沙 (T 1) 佐藤礼子 (T 2)

1 単元名 ぴかぴかたつきゅうびん③～クリスマスのかざりをとどけよう～

2 単元の目標

(1) 冬の季節の特徴を知り、季節の行事に関心をもつ。【知・技】

(2) 材料の形や色などの違いに気付き、使いたい材料を選び配置を工夫してクリスマス飾りを作る。

【知・技】 【思・判・表】

(3) 自分たちで作ったクリスマス飾りを届ける楽しさを感じながら、身近な教師や友達に届けようとする。【学・人】

【知・技】 知識・技能 【思・判・表】 思考力・判断力・表現力等 【学・人】 学びに向かう力・人間性等

3 児童と単元

(1) 児童について

本学年は、女子 3 名で構成されている。1 名は座位保持装置を使用しており、1 名は難聴児である。指示は言葉と一緒に簡単な手話や身振りをを用いることが多く、理解が難しい場合には、実物や写真カードを使用して個別に対応することが多い。児童は、絵の具やマジックペン、クレヨンなどの画材を使用する活動や毛糸やフェルトなどの布地に興味があり、意欲的に活動に取り組むことができる。経験がなく見通しがもてない活動や、興味のない活動には取り組もうとせず、興味・関心が広がりにくい。しかし、同じ工程を繰り返し行うことで、制作に見通しをもって意欲的に取り組めるようになってきた。また、季節に関する知識は少ないが、「夏はプール」「冬は雪遊び」など、今まで経験してきたことと季節は結び付いている。児童が好きな活動や形・色を組み合わせた工程にすることで、季節の行事や植物に興味をもち、季節の事物の名前を発言することや、季節の物に合った色を自分で選び制作に取り組む姿がみられるようになってきた。

また、3 名とも教師との関わりを好み、自分から教師に話し掛け関わろうとする児童や、発語や身振りなどの伝え方を模索してやりとりをしようとする児童など、自分なりの関わり方で関わろうとする。前単元の制作物を届ける活動では、その場に合った話し方ができず、教師の代弁がなければ相手に伝わらないことも多くあったが、制作物を誰かに評価してもらうことを楽しみに制作に取り組む様子が見られた。

(2) 単元について

本単元は、クリスマスを題材にクリスマスリースの制作やクリスマスツリーの装飾を制作し、身近な先生や友達に届ける活動からなる。クリスマスに関する言葉や飾りについて知ったり、制作したい飾りに合わせて材料や用具を選択したりして、制作活動を中心に展開する。クリスマスの飾りをそれぞれの好きな色や素材を生かして制作できる活動にすることで、作りたい飾りのイメージをもって材料を選ぶことや制作への意欲や工夫につながり、完成時の達成感となると考える。また制作物を届ける活動をゴールに設定することで、他者と関わることの喜びにつながり、「また届けたい」という制作への動機付けになると考え、本単元を設定した。

(3) 指導について

- ・見通しをもち、児童が自ら活動に取り組むことができるように、制作のヒントや補助具を提示し、1 単位時間で制作し、次時に前時に制作した物を届けるという流れを繰り返す。

- ・使用する用具や材料を自分で選択し、準備できるように、材料置き場を設置し、児童の興味がある材料を提示する。
- ・クリスマスがある季節やクリスマスの飾りについて理解を深めることができるように、クリスマスに関するイラストや写真、飾りの実物を見る活動を設定する。
- ・選んだ材料が、クリスマスの飾りになっていく過程を実感できるように、「キラキラのクリスマスツリーになってきたね」「いい形だね」などと児童の気持ちを代弁したり、行動を意味付けしたりする。
- ・使いたい材料や用具を求めたり、教師に支援を求めたりする際に、児童が積極的に発信できるように、発信の方法や発語、身振りの仕方を教師が演示する。
- ・制作場面の様子や友達や教師とのやりとりを見て振り返ることができるように、教師が iPad で動画や写真撮影をする。
- ・身近な先生や友達に届けることを意識できるように、届ける相手の名前を確認する場面や、届けたい友達の写真を操作する活動を設定する。
- ・届ける相手に伝えたい情報が伝わるように、原稿を穴埋めにして事前に準備する活動や、伝えたい単語の絵カードなどの視覚的支援、届け先の場所の環境を整える。

4 指導計画（総時数 16 時間）

小単元名	目 標	関連する教科等	主な活動内容	時数
(1) クリスマスたつきゅうびんはじまるよ！	<ul style="list-style-type: none"> ・冬に関する言葉や飾りを知る。【知・技】 ・12月にクリスマスパーティーあることを知り、制作する飾りが分かる。【知・技】 	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスの絵本読み聞かせ ・クリスマスの歌を歌ったり踊ったり、実際に飾りを見る ・単元計画表の制作 	2
(2) キラキラなリースをとどけよう！	<ul style="list-style-type: none"> ・ボンドやグリッターのりなど様々な接着剤を使用し、リースを制作する。 【知・技】 ・必要な材料や用具を選択して作る。【思・表・判】 ・届ける相手に合わせた話し方や伝わりやすい方法で伝えようとする。【学・人】 	図画工作 生活	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスリースの制作（段ボール、トイレットペーパーの芯） ・制作したクリスマスリースを身近な先生や友達に届ける。 	4
(3) ツリーのかざりとどけよう！	<ul style="list-style-type: none"> ・飾る場所や届ける相手が分かり、自分で選んだ材料を組み合わせる。 【知・技】 【思・表・判】 ・装飾を届ける際に、友達や先生に制作時に頑張ったことを伝えようとする。 【学・人】 	図画工作 生活	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスツリーの装飾制作 ・制作した装飾を身近な先生や友達に届ける。 	9 (本時7/9)
(4) クリスマスたつきゅうびんフィナーレ！	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの活動を振り返り、他者に伝えようとする。 【学・人】 	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部低学年でのクリスマスパーティーでのツリー紹介 	1

			<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの写真を選び、壁面作り ・壁面用のクリスマス飾り作り 	
--	--	--	--	--

5 本時の計画（総時数 16 時間中の 13 時）

(1) 全体の目標

- ・クリスマス飾りを 4 年生に届けるために、自分で選んだ材料を組み合わせて作る。

【知・技】 【思・表・判】

(2) 個別の目標と手立て

氏名	単元の目標	本時の目標	目標達成の手立て
K・A	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスの飾りが分かり、制作したい飾りに合った材料や用具を選ぶことができる。 <p>【知・技】 【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手話や身振り、完成品を見せて、相手に制作物を紹介しようとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の材料の中から、使いたい材料を自分で準備し、作る。 <p>【知・技】 【思・判・表】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の材料を選ぶ事ができるように、小分けの材料を3種類入れることができる容器を提示する。 ・材料が見やすく取りやすいように、選んだ材料を広げるトレーを机上に用意する。 ・制作しながら、教師に支援を求めやすいように、正面で教師と一緒に制作を行う。
S・R	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割やその進め方が分かり、2～3程度の手順を自分で進めて制作することができる。 <p>【知・技】 【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に合わせた話し方が分かり、頑張ったことを相手に伝えようとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の手順が分かり、一人で数種類の材料を選んで制作できる。 <p>【知・技】 【思・判・表】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な材料を選ぶ事ができるように、材料置き場に小分けの材料を各種類1～2個ずつ置く。 ・作りたい装飾に必要な用具が分かるように、必要に応じて、使う物リストを提示する。
S・E	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な材料や道具を自分でまたは教師と一緒に操作して制作をする。 <p>【知・技】 【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な発語や身振りですたいことや頑張ったことを相手に伝えようとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師とやりとりしながら使いたい材料を選び、自分で飾りのボールに入れて制作できる。 <p>【知・技】 【思・判・表】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・選ぶ飾りを、見えやすい位置で提示する。 ・つまみやすく、入れたことが音でも感じられる飾りを用意する。 ・飾りを置くトレーと入れ物（ボール）の色にコントラストを付け見えやすくする。

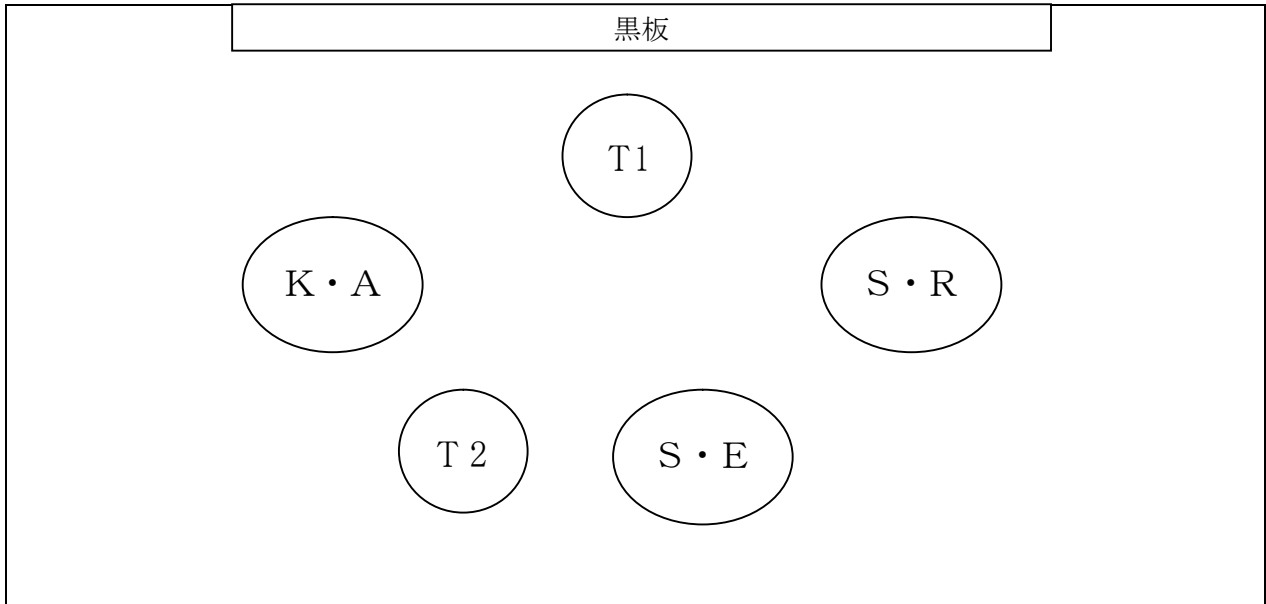
(3) 学習過程

時間 (分)	学習活動	手立て・指導上の留意点
10:40 (2)	1 始めの挨拶をする。	
10:42 (4)	2 本時の学習内容とめあてを確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> めあて いろいろなざいりょうをくみあわせて、ツリーのかざりをつくろう！ </div>
10:46 (30)	3 クリスマスツリーの装飾作り (1)装飾を制作する。 ①作りたい装飾を選ぶ。 (ミニリース、ミニツリー、ボール装飾) ②使う材料を選び、用具を準備する。 ③机上で制作する。 ④完成品を指定の場所に持って行く。 ⑤片付けをし、次に作る相手を選ぶ。 上記の活動を繰り返す。 (2)メッセージカード作り (S・R)	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって学習に取り組むことができるように、本時の学習活動の順番を黒板に提示する。 ・めあての「いろいろなざいりょう」が分かるように、前時までの完成品を黒板に提示し、材料の組み合わせに気付かせる。 ・制作の目的を確認できるように、今まで届けた相手と今日届ける相手(4年生)を単元計画表で提示する。 ・今日届ける相手をそれぞれが意識できるように、最初に誰に作るか選ぶ活動を設ける。 ・制作したい装飾を選択できるように、飾りの実物を見本として材料置き場に提示する。 ・S・Eが制作する飾りのイメージをもつことができるように、手元に実物を提示する。 ・制作したい装飾に必要な材料を適量持っていきことができるように、黒板前に材料置き場を設置し、同じ種類ごとにプラスチックコップに分けて提示する。 ・K・AやS・Rの制作のヒントになるように、T2が正面で一緒に制作をする。 ・K・AやS・Rが色々な材料を使用して作ろうとしていることを実感できるように、「いろんな材料を使ってきれいだね。」「のりは〇〇を使ってるんだね、雪みたいだね。」と教師が言葉掛けをする。 ・届ける相手を意識することができるように、完成した飾りを完成品置き場に置く活動を設ける。 ・S・Rが配達に行く際のカードを自分で制作できるように、単語を穴埋めするカードを提示する。
11:16 (9)	4 おわりの会をする。 ① がんばり発表 ② 先生の話 ③ 終わりの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・K・AとS・Eが「何を作ったか」「誰のために作ったか」発表できるように、手話や身振りを使って、教師と一緒に発表する。 ・発表者の制作物に注目できるように、聞いている他の児童に、「〇〇さんはどんな材料を貼っていますか」「何に見えますか」と教師から質問する。 ・発表者と制作物に注目できるように、移動式のホワイトボードを使用する。 ・がんばり発表の中で、どの材料を組み合わせで制作したのか教師が質問し、制作物を具体的に称賛する。 ・達成感につながるように、4年生全員分制作することがで

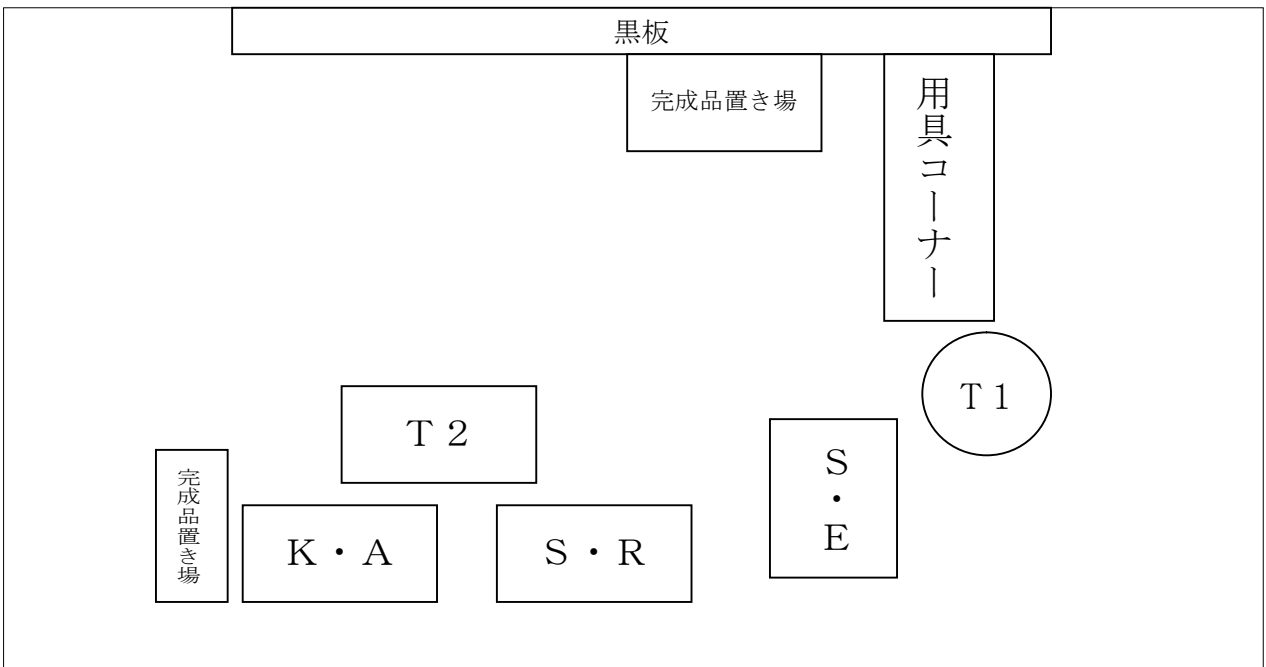
		<p>きたかを制作ボードで児童と一緒に確認し、花丸マークを貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時に意欲をもつことができるように、次時に宅配便の衣装に着替え、配達があることを伝える。
--	--	--

(4) 配置図

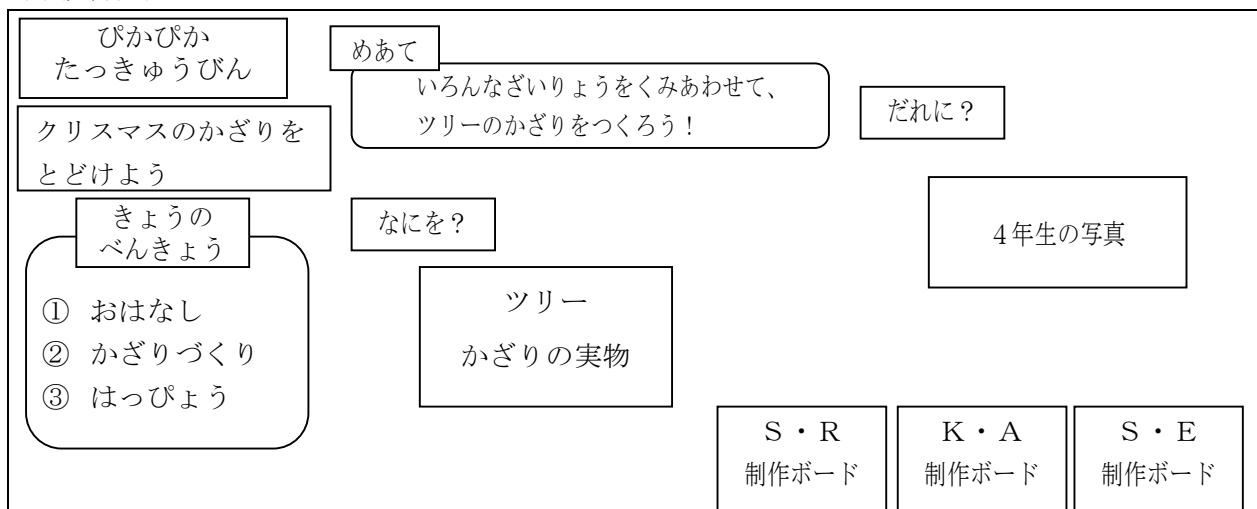
① はじめの会、おわりの会



② 制作場面



(5) 板書計画



※黒板右横に単元計画表の模造紙、左横にアドベントカレンダー掲示

(6) 評価の観点

(児童) ・作りたい装飾を選び、使いたい材料を選んで組み合わせて作っていたか。

(教師) ・児童がなるべく一人で制作や振り返りに取り組むことができるように、材料や用具の提示、補助具などの手立ては適切だったか。

単元を通して育成する各教科等の主な内容

小学部 図画工作 2段階 A 表現 ア (ア) 材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付くこと。 【思・判・表】 (イ) 身近な材料や用具を使い、書いたり、形をつくったりすること。【知・技】
小学部 生活 2段階 オ 人との関わり (ア) 身近な人を知り、教師の援助を求めながら挨拶や話などをしようとする事。 【思・判・表】 【学・人】 (イ) 身近な人との接し方などについて知ること。【知・技】 サ 生命・自然 (ア) 身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとする事。【思・判・表】 (イ) 身近な生命や自然について知ること。【知・技】

下線は、本時を通して育成する各教科等の主な内容

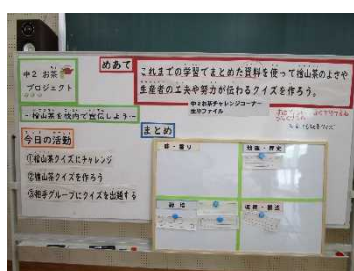
I 研究の実際

1 「しらかみの恵みを生かした学習活動」を基にした魅力ある単元設定と学習活動の質の向上

- 4月に「中学部単元配列表」(中：資料①)を基に、生活単元学習の年間指導計画を各学年で作成した。昨年度の研究成果である「令和4年度中学部生活単元学習共有シート」(中：資料②)を基に能代市の特産物や文化、自然など地域資源を生かした単元を設定した。そして、年間の主な内容や育成する各教科等、他学年との連携について検討を図った。

学年	主な単元名	内容
1年	中1Lab	宇宙、自然について見学、体験、発表
2年	中2お茶プロジェクト	檜山茶のPR
3年	中3しらかみチャンネル	能代市のPR

- 中学部2年生の公開授業研究会の提示授業のロールプレイを学部職員で行った。生徒が本時の目標を達成するための授業展開や教師の発問の工夫、ワークシートの活用の仕方を検討した。生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるように、考える際の手掛かりとなる板書や掲示物、学習予定表の工夫を図った。



<本時の学びが分かる板書>



<学びの履歴が分かる掲示物>

2 生活単元学習において達成する「各教科等の目標や内容」の検討

- 単元検討会では、「単元構想シート」(中：資料③)を使用し、学習指導要領の単元を通して育成する各教科等の目標及び内容を押さえながら、単元において目指す姿(「分かった、できた、もっと知りたい」)を明確にし、単元の目標や指導内容を設定した。

3 学習活動の工夫とICT機器の活用

生徒の実態を踏まえながら、「令和4年度中学部生活単元学習共有シート」(中：資料②)の「生活単元学習の授業づくりのポイント」を生かした授業づくりを行った。

- 小グループを設定し、意見を出しやすい環境を整え、一人ずつ調べたことや考えたことをペアや全員で共有する場面の中で、伝え合う、認め合う活動を設定した。
- 校内や地域の方など、様々な人と関わることで学びを深める学習を展開できるようにした。自分の意見を表現する手段としてカードや付箋紙だけでなく、タブレット型端末の電子メモパッドやアンケートのアプリケーションを使用した。
- 見聞きして感じたことを分かりやすく表現するための手段としてプレゼンテーションや動画編集のアプリケーションを活用した。



<プレゼンテーションアプリKeynoteの活用>



<タブレット型端末で情報の検索>

II 授業実践

1 各学年の実践について

中学部 1年	
単元名	中1 Lab～さつまいもを比べよう～
目標	<p>(1) いろいろな種類のさつまいもがあることが分かり、特徴や違いについて知る。 【知・技】</p> <p>(2) 友達や教師に自分の意見を伝えたり、友達の意見を尊重したりしながら、選択したり譲り合ったりして集団での活動を楽しむ。【思・判・表】</p> <p>(3) 集団の中での自分の役割を理解し、積極的に取り組む。【学・人】</p>
指導の実際	
<p>(1) 単元設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態や興味・関心を踏まえ、理科の要素を多く含んだ内容を取り入れた。「知る」、「体験する」、「まとめる」活動を単元の構成として、繰り返し取り組んでいる。この単元では、春から秋にかけて、学年畑で3種類のさつまいもを栽培、収穫する過程を通して生徒の植物への興味・関心を高め、その違いに気が付くことができる場面を設定した。また、「予想を大事に」の合言葉のもと、生徒の主体的で自由な発想を引き出すことを大事に考えた。そして、観察し、「なぜだろう」、「たぶんこうだから」と「考察」していく過程を繰り返すことで、より興味をもって学習に取り組むことができるよう配慮した。 <p>(2) 学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 小グループで学習を進め、一人一人の意見が出しやすい場面を設定し、繰り返し実施することで、考えを伝え合いやすい環境作りに努めた。 言語の表出が難しい生徒には、想いを伝えることができるように、写真や絵カードを用意した。 見た目の違いだけでなく、調理活動で違いを感じたり、糖度計を用いて甘さを数値化・視覚化して比べたりすることで、より深い学びや意見交換ができる場面を設定した。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が実験着（白衣）を着用して授業に臨んだことで、「中1 Lab」の学習に期待感をもって取り組めるようになった。 3つの約束「まず、やってみよう」、「あきらめずに、もう一回」、「みんないっしょに」を毎回掲示して、適宜確認したことで、学習に向かう姿勢や学習のルールが徐々に定着し、意欲的に学習に向かう場面が増えてきた。 写真や動画などを効果的に提示、活用したことで、生徒がイメージを伝え合う、過去の学習場面や出された意見をその場で想起・確認しながら学習活動に取り組むことができた。 「予想」、「検証」、「考察」の学習の流れが定着し、お互いの考えを述べ合う場面が増えてきた。 	
課題	
<ul style="list-style-type: none"> できるだけ生徒が多く意見を出すように、安心して話せる場や時間を確保、提供し、発言しやすい雰囲気を作ることができた。今後は、積極的に自分の考えを述べ合うことができてきている部分を大事にしつつ、友達の意見に自分の考えを述べたり、話し合って意見をまとめたりしながら、グループ同士の意見を合わせて全体でまとめていく過程で、更なる成長を促していきたい。 学びの履歴の提示やまとめの明確化を図り、ここが分かった、ここがもっと知りたいという部分を生徒自身が振り返ることができるように、ワークシートの活用や板書の工夫などを図りたい。 	

中学部 2年	
単元名	中2お茶プロジェクト～檜山茶を校内で宣伝しよう～
目標	<p>(1) 檜山茶の味、歴史などの特徴を調べ、生産や販売の工夫や努力を知る。【知・技】</p> <p>(2) 檜山茶の特徴や生産・販売の工夫・努力を捉え、他者に伝わるような文章を考え表現する力を高める。【思・判・表】</p> <p>(3) 他者に檜山茶を知ってもらうために、相手からもらった意見を生かして発表内容の工夫や改善をしようとする。【学・人】</p>
指導の実際	<p>(1) 単元設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・檜山茶生産農家である「茶誠堂」の依頼を受け、昨年度から学んできた檜山茶の学習内容をパンフレットやポスターにまとめ、年度末に能代山本地域の人に宣伝することにした。そこで本単元では、校内の生徒や教師に、これまで学習した内容をクイズ等にまとめて発表する活動を通して、何を相手に一番伝えたいか意識できるようにした。生徒同士の話し合いでは、理由を添えて自分の意見を述べることや友達を気遣いながら全員の意見をまとめることをねらい、今後様々な集団の中でも円滑に話し合いを行う基礎づくりを目指した。 <p>(2) 学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習の流れが分かるように、授業の導入やまとめで単元計画表を示して経過を確認した。 ・本時の学習の見通しがもてるように、ホワイトボードに前時までの学習の記録を提示し、各グループで確認する機会を設定した。 ・「茶誠堂」との関わりについては、生徒が具体的なイメージをもって、学習活動に取り組めるように、校外学習等での体験や動画や写真等を活用してやり取りをする場面を設定した。 ・生徒主体で話し合いができるように、話し合いの進め方やルールを板書で示した。 ・話し合いの場面で、全ての生徒が参加できるように、自分の意見を表現する手段として、付箋紙やタブレット型端末の電子メモパットを活用した。 ・発表の評価をその都度得られるように、タブレット型端末で自分の発表する姿を撮影して自己評価する場面や、アンケートを使った他者評価の場面を設定した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習したことを「檜山茶コーナー」と生徒が名付け、模造紙にまとめて提示した。この資料を活用して、個人やグループでクイズ作りに取り組んだ。檜山茶について学んだことを生かしてクイズを作ろうと意欲的に取り組む姿が見られた。 ・クイズ作りを通して、これまで学んだことや調べたことについて、自分で考え、まとめることが、情報の整理や系統化につながった。曖昧な知識や分からなかったことは、再度学び直しを行うことができた。 ・クイズの出題や説明の練習と評価を繰り返したことで、自分が作ったクイズに自信をもち発表する姿や、友達のクイズを評価・改善する姿が見られた。他者に自分の考えを発信する力やコミュニケーション能力が高まった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が生産者の工夫や努力について深く考えさせるような発問の仕方や、気付きを促すための言葉掛けが少なかった。檜山茶のよさや生産者の努力や工夫を生徒がどこまで理解しているか実態把握を明確に行い、対応する必要がある。 ・クイズを発表することから、クイズ作りの中で話し合いや学び合いを深めることができる適切なグルーピング設定や手立てを検討する。

中学部 3年	
単元名	中3しらかみチャンネル～秋田の魅力を再発見！畠町編～
目標	<p>(1) 能代市畠町の新しい施設やお店についての特徴を知る。【知・技】</p> <p>(2) 分かりやすく伝えるための適切な表現を考え、工夫しながらパンフレットや動画にまとめる。【思・判・表】</p> <p>(3) 能代市民に畠町の施設やお店の良さが伝わるよう、他者からもらった意見をもとに改善を重ねてより良いパンフレットや動画にしようとする。【学・人】</p>
指導の実際	
<p>(1) 単元設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 本単元では、能代市役所の職員の方からの依頼を受け、能代市畠町の「マルヒコビルディング」、「畠町新拠点」、「畠町周辺のお店」について調べ、能代市民に向けたパンフレットや動画の制作を行った。昨年度から繰り返し学習してきた、相手に分かりやすく伝えるための話し方や書き方のポイントを基に、取材や体験を通して感じたことを大事にし、自分たちが新たに見つけた能代市の魅力を伝えることにした。さらに、パンフレットや動画の制作に当たっては、自分たちが感じたことを適切に表現する力を育みたいと考え、本単元を設定した。 <p>(2) 学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が調べ学習やパンフレット、動画制作の要点を押さえるよう、授業の導入部で繰り返し「PRする相手に分かりやすく伝えるためのポイント」を提示した。 体験して感じたことをパンフレットで表現できるよう、校外学習やゲストティーチャーを招いた学習活動を設定した。 活動の成果を共有できるよう、小グループに分かれ、各々がグループ内で役割をもつ場面を設けた。 取材や体験で見聞きして感じたことを相手に分かりやすく表現するための手段として、プレゼンテーションや動画編集のアプリケーションを使用し、写真や文章の大きさや色の工夫についても考えることを設定した。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> 「PRする相手に分かりやすく伝えるためのポイント」として、店の歴史や経緯など、具体的に伝えるべき内容を示した。地域の方へのインタビューでは、それらを聞き取ることができるよう、質問内容を工夫して取材をすることができた。取材や体験を通して、地域への関心が高まり、他者との関わり方に変化が出てきた。 小グループで取材の成果を発表して、全体でまとめることで、自分の役割と活動の結び付きを捉えることができた。 タブレット型端末のプレゼンテーションのアプリケーションを使用したことで、文字入力や写真編集の仕方を覚え、積極的に学習に取り組めるようになってきた。 	
課題	
<ul style="list-style-type: none"> 「PRする相手に分かりやすく伝えるためのポイント」を理解し、表現する力が高まってきている一方で、個人の活動が多くなってしまった。小グループで話し合いをする場を今後も取り入れ、主体的に活動に取り組む姿勢を育みたい。 学習課題に対する自己評価や他者評価を具体的にを行うことができるよう、話し合いなどのよい場を教師が付箋紙に書いて渡すなど、客観的によさを実感できる手立てを工夫する。 	

2 授業研究会について

令和4年度 第2回 全校授業研究会	
期日	令和4年7月14日（木）
学年・単元名	中学部2年「中2お茶プロジェクト～檜山茶を宣伝しよう～」
グループ協議で出された改善の要点	<ul style="list-style-type: none"> ・「北限」に気付いてほしい、「檜山茶の特徴」を知ってほしいの2つが同時進行で、めあての「檜山茶のよさや生産者の工夫・努力が伝わるクイズを作ろう」が不明瞭となった。北限については基礎知識として押さえるとよかった。 ・檜山茶の特徴を考えるには、知識として学ぶだけでは難しいので、体験して分かるような学習場面も設定する必要がある。
指導助言① (教育専門監 渡部陽子)	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に見て聞いて体験することを通して、課題意識を高めることがよい。そのためには、まず校外学習を先に行うなど、単元配列の工夫が必要である。 ・個人の興味・関心、得意なことを生かしたグループ設定を工夫する。 ・単元の最後は、自分たちが宣伝してどうであったか振り返る時間を入れてほしい。 ・生徒が学習に参加できるようにするには「学習活動で支える→物的環境を整える→最後に人的環境を整える」の順で支える。
指導助言② (教頭 佐藤圭吾)	<ul style="list-style-type: none"> ・やりとりが活発だったが、発言が少ない生徒がどのくらい理解して思考して判断していたか。その見取り、可視化にICTの活用ができないか。 ・各教科等の目標を意識するとともに、生活単元学習としてのよさを考え、単元づくりをする。 ・目標は「～の活動を通して～を知る、理解する、身に付ける」などの表現にするとよい。「単元を通して育成する各教科等の主な内容」は、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」が対になっているので両方を抜き出し、整理する。 ・指導案を書いたら、単元目標に立ち返り、指導計画、本時の目標までに一貫性があるかを見直す。 ・生徒の疑問から展開するなど、主体的な学びの引き出し方を工夫する。また、知識だけで終わらず、生徒の発言を生かし、深い学びにつながる展開の工夫が必要である。

令和4年度 公開授業研究会（中：資料④）	
期日	令和4年9月5日（月）
学年・単元名	中学部2年「中2お茶プロジェクト～檜山茶を校内で宣伝しよう～」
グループ協議で出された改善の要点	<ul style="list-style-type: none"> ・深い学びへとつなげるために、伝わるクイズとはどういうものなのかを押さえられるとよい。 ・檜山茶の生産者とのやり取りをさらに繰り返すことで、学びがより深まる。 ・よいクイズをたくさん作っていたので、「これがお茶のよさ」、「生産者の工夫」だと気付ける教師の発問や言葉掛けが大事になってくる。 ・クイズづくりの参考に、既習事項のプリントや壁面の掲示物を見ていたが、情報量としては多かった。 ・学んできたことを生かすことができるような資料、掲示物の活用。 ・めあてに沿ったクイズを作ったかを評価するなど、まとめにつながる自己評価ができればよい。
指導助言 (秋田県教育庁特別)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに教師の表情が見える立ち位置で授業ができていないか。教師の表情が見えることで生徒に安心感を与え、教師の豊かな表情が子

支援教育課主任指導主事 菊地真理)

- どもたちの柔軟な思考につながる。
- ・グルーピングを吟味する。友達に丁寧にやりとりしながら、やさしく教えていたが、その生徒の学びの保証はどうなったかを考える必要がある。
 - ・まとめの時間が少なくなったが、時間配分のどこに比重を置くのか。
 - ・まとめにもつながるので、めあてに沿ったクイズを作ることができたか生徒と確かめるとよい。
 - ・ICTを活用することで、動画で檜山茶の生産者とやり取りをする、アプリを使ってクイズを作る。出先でタブレット型端末を使えると、地域の方々に活動を見てもらえたり、宣伝活動にも活用できたりするのではないか。
 - ・各教科の目標、自立活動の目標を整理して実態把握をすることで、単元のよさがさらに出るようになる。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

(1) 育みたい資質・能力を明確にした目標設定

- ・「単元構想シート」(中：資料③)を使用し、単元を通して育成する各教科等の目標及び内容を押さえることで、生徒の目指す姿や単元の目標を明確に設定することができた。
例) 地域の地理的な特徴や産業、文化を調べる、相手や目的を意識して経験したことの中から選んで伝えたいことを明確にする、意見を伝え合い違いに気付く、など
- ・各教科等の目標及び内容の視点を生かすことで、学習活動の精選を図り、教材・教具の工夫、教師の発問の整理などといった手立ての焦点化につながった。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

- ・生徒の実態や興味・関心、既習事項を踏まえて、各学年ごとに地域資源を活用した通年の中心単元を展開した。この中で「調べる」、「体験する」、「まとめる」の流れを繰り返し行うことで、生徒が自分から調べる、見学やインタビューなどを通して実際に体験する、学んだことを分かりやすくまとめて伝えることができた。また、疑問に思ったことや分からなかったことを調べることで、主体的な課題解決につながった。
- ・単元構成では、前半に「調べる」、「体験する」学習、後半にそれらを活用する学習を設定したことで、分かったことやできるようになったことを生かしながら活動に取り組んだ。また、生活単元学習で身に付けた調べ方やまとめ方を他の学習に生かすこともできるようになってきている。
- ・中心単元の中で、地域の方から依頼を受ける、調べてまとめたことを発表する、地域の方に成果を報告して感謝されるという活動の流れを積み重ねた。これにより、質問内容を工夫してインタビューをする、調べたことを分かりやすくクイズやパンフレットにまとめる、分かりやすく発表するなど、他者意識や目的意識をもって活動に取り組む姿につながった。
- ・タブレット型端末を使った文字入力や写真編集の仕方が分かり、伝えたいことを分かりやすく示すための手段として使うことができるようになってきた。写真機能を使い、生徒自身が記録を行うことで、振り返りに活用する様子も見られた。
- ・教師が電子黒板で写真や動画を効果的に提示、活用することで、生徒が活動内容のイメージをもちながら、完成に向けて取り組むことができた。

(3) 効果的な授業改善の蓄積

- ・公開授業研究会の提示授業のロールプレイを全職員で行い、生徒が目標を達成できるように、見通しをもつことができる学習予定表を提示する、発問を整理して導入を短く行う、T2とT3は必要に応じたグループの生徒の支援を行う、まとめで一人一人の成果を共有するといった改善を図った。これらは、各学年の授業実践にも生かすことができた。

- ・学びの履歴をまとめて壁面に掲示する、ワークシートをファイルにまとめて毎時間見返すなどの工夫が、調べたことやできたことを生かして学習に取り組む姿につながった。

2 課題

(1) 育みたい資質・能力を明確にした目標設定

- ・生活単元学習の中心単位における各教科等の目標及び内容を押さえることで、育みたい資質・能力を明確にした目標設定ができた。今後は、中心単位以外も含めた目標設定について考え、単元構想の段階から、年間を通じた単元で達成する目標や行事単元で達成する目標など、単元の配列と設定すべき目標の検討を行っていく。
- ・生徒が本時で「何ができたのか」を振り返ることができるように、目標を達成している姿を教師が写真や動画で記録する、付箋紙に記入するなどして生徒に提示するといった工夫が必要である。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

- ・繰り返しの学習や単元設定の工夫によって、生徒が見通しをもって取り組む姿が見られた。その中で、生徒自身が活動を進めながら学び合う姿を育てていきたい。課題を解決するための効果的な話し合い活動の設定とともに、個人、ペア、グループ活動の適切な取り入れ方を検討する。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
全校行事他	05 始業式 08 入学式 22～29 面談週間 29 PTA総会	14 運動会 24 日補え 30 高美習見学	3PTA授業参観 30～7/5 中前期実習 下旬 補修実習 7～8 宿泊学習 16～17 修学旅行	6/30～7/5 職員参観週間 22 全校集会	25 全校集会 26～9/2 面談週間	9 公開研究会 16 特休連 22 船刈り 23～25 学校履 29 クリナーシップ 30 前期終業式	食育フェスタ 3 後期始業式 14 高ミューンシカル 22 学校祭	10/31～11/4 職員参観週間 17～12/1 中後期実習 * 職場見学	06 能代支援ショップ 音楽 小中(高?)合同 発表会?	冬 休 業	27 中学部祭り	8 中スケート教室? 10PTA授業参観 14 児童生徒委員会役員選挙	2 高入試 10 卒業式 20 修了式
合同生単	新入生歓迎会 *2,3年(8h) 1年(2h)	宿泊学習に向けて(16h) *1・2年 結団式(2h)	03 修学旅行・宿泊 学習報告会(2h)			学校祭ステージ発表に向けて	★③食育フェスタ?	中学部祭りに向けて ～「しらかみの恵みを生かし 七字習活動」をとおして	中学部祭りに向けて ～「しらかみの恵みを生かし 七字習活動」をとおして	中学部祭りに向けて 【しらかみの恵みを生かした学習 活動】をとおして		3年生を送る会 合格祈願会 (12h)	
学級学年生単		『しらかみの恵みを生かした学習活動』											
進路学習		30 高美習見学						高作業学習・英語見学 中3 高教育相談 高作業体験					
総合			地域貢献「地域に元気を届けよう」 他校との交流	能代科学技術高校との交流 育樹 ICT	『英語にふれよう』*地域の先生とALT クリナーシップ 育樹 ICT	育樹 ICT	育樹 ICT	育樹 ICT	育樹 ICT	他校との交流 育樹 ICT	育樹 ICT	雪ん子レンジャー 育樹 ICT	
作業班別			農圃芸 花いっぱい運動(プランター回収) ハートぽんぽこ	農圃芸 花いっぱい運動(プランター回収) 講習5日間									
音楽	校歌							基本ワークプレゼンT [ALTプレゼンT] 能代支援ショップ *音楽会に向けて:器楽 合奏(10h)					
美術	特休連・特文連・運動会ポスター一画製作												
体育	運動会に向けて	体カテスト	ブル	ブル	ブル								
保健			よさこい「輪風管の響」(通年) 身だしなみ 保健指導 年3回程度	汗の始末・清潔 トイレの正しい方法の発言・発達									
特活集会	情報モラル教室 学級集会 19 委員会 学級集会 1月1回 学級集会 1～2回	9 委員会 学級集会 21 情報モラル教室 学級集会 19 委員会	6 委員会 学級集会	11 委員会 21 情報モラル教室 学級集会	25 全校集会 29 委員会	1 不審者対応訓練 26 委員会 中高情報モラル教室実施週間 学級集会	全校集会25 学級集会	委員会 学級集会	5 委員会 12 情報モラル教室実施週間 学級集会20? 23 全校集会	16 全校集会 23 委員会 学級集会	13 委員会 14 児童生徒委員会役員選挙 27 情報モラル教室実施週間 学級集会	学級集会	
地域連携の励み		★居住校校交流	★特別支援学校との交流 年6回程度	★特別支援学校との交流 年6回程度									

1 生活単元学習の指導計画の作成にあたって考慮すること

- (1) 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態や生活年齢 等及び興味や関心を踏まえたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものであること。
- (2) 単元は、必要な知識や技能の習得とともに、思考力、判断力、表現力等 や学びに向かう力、人間性等の育成を図るものであり、生活上の望ましい 態度や習慣が形成され、身に付けた指導内容が現在や将来の生活に生かされるようにすること。
- (3) 単元は、児童生徒が指導目標への意識や期待をもち、見通しをもって、単元の活動に意欲的に取り組むものであり、目標意識や課題意識、課題の 解決への意欲等を育む活動をも含んだものであること。
- (4) 単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、学習活動の中で様々な役割を担い、集団全体で単元の活動に協働して取り 組めるものであること。
- (5) 単元は、各単元における児童生徒の指導目標を達成するための課題の解決に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてのまとまりのあるものであること。
- (6) 単元は、各教科等に係る見方・考え方を生かしたり、働かせたりすることのできる内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な意義のある経験ができるよう計画されていること。

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編P33より抜粋

2 キャリア教育全体計画から

- ・目標に向かって取り組み、地域や周りの人たちのために役立つことが分かって進んで役割を果たしたり、働いたりする生徒

3 中学部の目標

- ・行事や学級・学年のテーマに応じた実際的な活動を繰り返す中で、自分で課題を見付け、考え、行動するなど、主体的に活動する力を高める。
- ・集団で活動に取り組む中で、仲間と一緒に考えたり協力したりするなど、関わり合いながら課題解決をする力を高める。さらに、集団の一員として自ら役割を果たそうとする意欲や態度を

4 年間指導計画立案の留意点

○様々な人と学ぶことができる単元	年間を通したテーマを設定し、継続的に他学部や地域とつながりをもつ活動を設定する。
○学習の成果を発表し、認め合う単元	各学年で継続的に取り組んできた活動を生かし、お世話になった方を招き、学習したことを発表する「中学部まつり」を行う。
○学年合同の単元	普段の学習を生かし、リーダーとなり活動を進行する、分担された役割を果たすなどの場面を設定し、より大きな達成感を得ることができる活動を設定する。 ・新入生を迎える会、宿泊学習、学校祭、中学部まつり 卒業生を送る会
○進路学習に関する単元	高等部や将来の生活に関連する学習を設定する。1年生は、作業学習と関連付けながら進める。 ・高等部現場実習の見学、高等部体験、職場見学や体験 ・高等部受検に向けて（3年生）

5 生活単元学習の授業づくりのポイント

- 生徒同士が活動する中で「分かった、できた、気付く・考えを深める（もっと知りたい）」ことができるように伝え合う、認め合う、協力し合う活動を設定する。
- 校内、地域の方など、様々な人から学びを得たり、お互いに喜びや楽しさを共有したりする活動を設定する。
- 個人やペア、グループなど、一人一人の良さを生かすことができる活動や役割を工夫する。
- 生徒が目的や方法を理解し、取り組むことができるように、活動を繰り返す中で段階的な課題のレベルアップを図る。
- 期待感と見通しがもちやすい単元のゴールを示す。
- 生徒同士が協力して活動を進めていくために、生徒同士の伝え合いをつなぐ支援をする。

中学部2年 単元構想シート

単元名：中2お茶プロジェクト～檜山茶を宣伝しよう～

目指す姿

わかる、できる姿	・檜山茶の特色や歴史が分かる ・相手を意識した意見の伝え方や発表ができる
もっと知りたい姿	・友達の見解を認め合う ・よりよい宣伝について考える



単元の目標	(1) 檜山茶の特徴や生産者の想い等を知り、能代山本地域の人にパンフレットで伝える。 【知・技】	【知識・技能】 何を理解するか 何ができるか
	(2) 調べた情報から必要な情報を選択し、相手に分かりやすい方法や構図を協力して考える。 【思・判・表】【学・人】	【思考・判断・表現】 分かったこと、できたことをどのように使って、考える、試す、工夫する、表現するか
		【学びに向かう力、人間性など】 「知・技」、「思・判・表」の力をどう働かせながら、自分から学ぼうとするか、学びを実感するか



単元について・指導について	・徐々に認め合いや意見交換ができてきている。 ・自分の意見を伝える、発表することができる一方、相手意識をもって分かりやすく伝えることが難しい →理由付けをして友達に意見を伝える、分かりやすい宣伝方法や発表方法を考える ・活動に積極的な生徒が多い一方、目的が分かって考えて活動する経験が不足している ・昨年度の単元「中1お茶プロジェクト」(茶畑見学、除草や植え体験)を生かし、檜山茶について取り上げる。 ・→昨年度関わった茶誠堂の方から宣伝の依頼をしていた だき、依頼を通して目的意識をもった学習に結び付ける ・調べる場面や取材場面でICT機器を活用する	指導する各教科等の目標及び内容
		中学部 国語 思考・判断・表現 1段階 A 聞くこと・話すこと イ、ウ、オ B 書くこと ア、エ 知識・技能 2段階 ア (エ) 中学部 社会 1段階 ア 社会参加ときまり エ 産業と生活 オ 我が国の地理や歴史 中学部 理科 2段階 A 生命 イ 季節と生物

ICT、白神の恵みを生かした学習の視点

本単元で特に学ぶ部分について

日 時 令和 4 年 9 月 5 日 (月) 10 : 30 ~ 11 : 20
場 所 図書室
授業者 舘岡裕介 (T 1) 山田育宏 (T 2)
安田幸道 (T 3)

1 単元名 中 2 お茶プロジェクト ～檜山茶を校内で宣伝しよう～

2 単元の目標

- (1) 檜山茶の味、歴史などの特徴を調べ、生産や販売の工夫や努力を知る。【知・技】
- (2) 檜山茶の特徴や生産・販売の工夫・努力を捉え、他者に伝わるような文章を考え表現する力を高める。【思・判・表】
- (3) 他者に檜山茶を知ってもらうために、相手からもらった意見を生かして発表内容の工夫や改善をしようとする。【学・人】

【知・技】知識・技能【思・判・表】思考力・判断力・表現力等【学・人】学びに向かう力・人間性等

3 生徒と単元

(1) 生徒について

男子 4 名、女子 2 名の計 6 名からなる学級である。概ね言語による簡単な指示が理解できる。素直な性格の生徒が多く、にぎやかで学級の雰囲気は活発で明るく仲が良い。

未体験のことなどをイメージすることが難しく、相手の気持ちを考えて行動することが苦手な生徒が多い。また、自分の意見を発表することや、自分の考えを言語化することを苦手とする生徒がいるが、話し合いのルールや譲り合いを活動前に確認するなど、手順を視覚化することで、周りの友達と協力する姿が見られるようになってきている。

昨年度から「お茶プロジェクト」として檜山茶に関連した学習を行い、檜山茶の栽培・販売をする「茶誠堂」に行き、茶畑見学やお茶の種植え体験、除草作業や手揉み体験をしてきた。檜山茶を種から育てる経験を経て、檜山茶の歴史を学び、美味しいお茶の入れ方等の練習を重ねたことで、地域の特産物である檜山茶の美味しさや魅力に気付き、交流を通して地域への興味・関心も育ってきている。

(2) 単元について

「中 2 お茶プロジェクト」は、昨年度から継続し、地域の自然や産業を知り、身近な地域の特産品や働く人に興味や関心をもつとともに、相手意識を育てることにつながると考えている。

今年度は檜山茶の栽培・販売をする「茶誠堂」から「能代山本地域の人に檜山茶を宣伝してほしい」という依頼を受け、宣伝する内容や方法を考え、宣伝することを計画している。学級で話し合いを行い、「檜山茶」という名称を能代山本地域の人に「確実に知ってもらいたい」と考え、手元や目の前に残る手段としてパンフレットやポスターを制作することにした。

本単元は、生徒たちがこれまで学んだことをパンフレットやポスターにまとめるための前段階として、校内で宣伝する活動を中心に取り上げる。昨年度の経験を生かして、これまで学習してきたことや体験してきたことをクイズ等にまとめる活動を通して、何を相手に一番伝えたいか意識できるようにしたい。話し合いでは、理由を添えて自分の意見を述べることや友達を気遣いながら全員の意見をまとめるように意識することで、今後様々な集団の中でも円滑に話し合いを行うための基礎づくりとしたい。能代山本地域の人に檜山茶の魅力を伝えたい、茶誠堂の役に立ちたいという思いから自分の役割に責任をもって取り組み、更によりよいものを作って宣伝したいという意欲を高めながら、生産者の工夫や努力について理解することができるのではないかと考え、本単元を設定した。

(3)指導について

- ・学習に対する見通しがもてるように単元計画表を示して確認する。
- ・本時の学習に対する見通しがもてるよう、ホワイトボードに前時までの学習の記録を残し、グループで確認する機会を設定する。
- ・生徒が具体的なイメージをもって、学習活動に取り組めるように、動画や写真等を活用して茶誠堂の方とやり取りする場面や、茶誠堂への校外学習等の体験を設定する。
- ・気候や気温の違いを視覚的に区別できるように、日本地図に気温別に塗り分けて示す。
- ・生徒主体で話し合いができるように、話し合いの進め方を示したり、話し合いのルールを板書して明記したりする。
- ・話し合いの場面では、自分の意見を表現する手段として、付箋紙や電子メモパットを用意し、全ての生徒が参加できるよう工夫する。
- ・宣伝の評価をその都度得られるように、タブレット端末で自分の宣伝する姿を撮影して自己評価する場面や、アンケートなどで他者評価する場面を設定する。

4 指導計画（総時数 28 時間）

小単元名	目 標	指導する教科等	主な活動内容	時数
(1)宣伝方法を決めよう ・宣伝方法を考える ・能代山本地域で有効な宣伝方法を決める	・茶誠堂からの宣伝依頼の要点が分かる。【知・技】 ・宣伝目的を理解し、相手に分かりやすい宣伝方法を協力して決める。 【思・判・表】【学・人】	国語 社会	・茶誠堂からの檜山茶に関する宣伝依頼動画を視聴する。 ・宣伝方法を調べ、目的に合致する方法を話し合っ て決める。	4
(2)檜山茶の特徴を知ろう ・檜山茶の歴史 ・檜山茶の栽培地の気候 ・檜山茶の味 ・茶誠堂への校外学習（茶葉の手揉み、インタビュー等） ・生産や販売のための工夫や努力	・檜山茶誕生の歴史や関わった人物を知る。【知・技】 ・他のお茶と比較しながら檜山茶の味や栽培されている気候について理解し、相手に分かりやすくまとめる。 【知・技】【思・判・表】 ・檜山茶の製法が分かり、体験やインタビューを通して檜山茶について更に知ろうとする。 【知・技】【学・人】	国語 社会 理科	・檜山茶の歴史について、インターネット検索を活用し、調べる。 ・檜山茶と他の日本茶の味を比較し、味の違いを自分の言葉で表現する。 ・有名な日本茶の栽培地域や各地の気温を比較し、檜山茶が栽培されている気候を調べる。 ・茶葉の手揉み体験やインタビューを行い、檜山茶について学びを深める。	8
(3)檜山茶について校内で宣伝しよう ・紹介文や出題内容を考える ・中学部の生徒や職員に発表する ・アンケートを基に改善する	・これまで学習してきたことをまとめ、檜山茶について知ってもらえるような宣伝やクイズを考える。 【知・技】【思・判・表】 ・アンケートを読み取り、改善に向けて変更部分や役割分担をグループで話し合っ て決める。【思・判・表】	国語 社会	・檜山茶の特徴や生産者の工夫や努力をまとめ、宣伝内容やクイズを考える。 ・役割分担をして小道具製作や宣伝準備を行う。	(本時 9/16)

5 本時の計画（総時数 28 時間中の 21 時）

(1) 全体の目標

- ・これまでの学習でまとめた資料を生かして、檜山茶の特徴や生産者の工夫等をまとめ、クイズを作ることを通して相手に伝わりやすい文章のつくり方を知る。 【知・技】 【思・判・表】

(2) 個別の目標と手立て

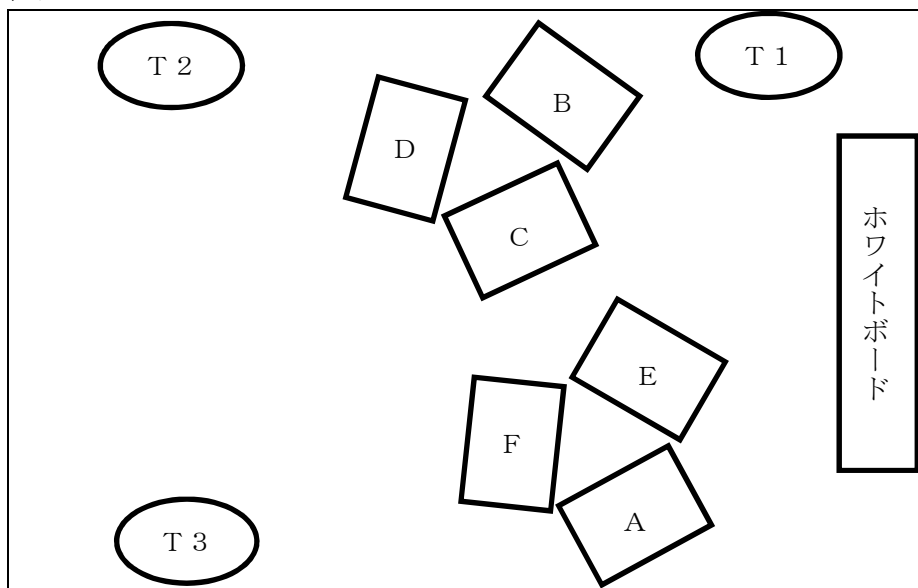
氏名	単元の目標	本時の目標	目標達成の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> ・檜山茶の味や誕生した時代、栽培地の気候が分かる。【知・技】 ・ホームページの記事やインタビューから必要な情報を抜き出すことができる。【思・判・表】 ・相手から意見を引き出し、グループの意見をまとめようとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで習得した知識を用いて、檜山茶の特徴や生産者の工夫・努力に気づき、4つのテーマに沿ってクイズを考える。【知・技】 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報を思い出し、活用できるように、檜山茶コーナーを用意する。 ・必要に応じて、学習ファイルを活用するように言葉掛けする。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・檜山茶の味や誕生した時代、栽培地の気候を知る。【知・技】 ・情報を基に考えをまとめ、発表することができる。【思・判・表】 ・グループの友達の話聞き、話合いに参加しようとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・檜山茶コーナーを見て、これまでの学習を確認し、檜山茶の特徴について、ワークシートでまとめながらクイズを考える。【知・技】 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を想起できるように、これまでの檜山茶に関する活動の様子を写した写真や制作した掲示物を提示する。 ・考えたことをクイズにできるように、記入すると話し言葉のクイズになる穴埋め式のワークシートを準備する。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・檜山茶の特徴を知る。【知・技】 ・自分の意見を相手に伝えることができる。【思・判・表】 ・宣伝相手や宣伝目的を理解し、目的に合った宣伝内容を選択しようとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・檜山茶コーナーを見て、これまでの学習を確認し、檜山茶について知っていることを、ワークシートでまとめながらクイズを考える。【知・技】 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を想起できるように、これまでの檜山茶に関する活動を写した写真や制作した掲示物を提示する。 ・クイズにしたいことを表出できるように、キーワードや想起したことを書くワークシートを用意する。 ・考えたことをクイズにできるように、記入すると話し言葉のクイズになる穴埋め式のワークシートを準備する。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・檜山茶の味や誕生した時代、栽培地の気候を簡単に説明することができる。【知・技】 ・他者の意見を取り入れて、改善方法を考えることができる。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・檜山茶コーナーを見て、これまでの学習を確認し、檜山茶の特徴や体験したこと等に関するクイズを考える。【知・技】 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を想起できるように、活動の様子を写した写真や制作した掲示物を提示する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を思いやる言動に気を付けて話合いに参加しようとする。 【学・人】 		
E	<ul style="list-style-type: none"> ・檜山茶の味や誕生した時代、栽培地の気候を簡単に説明することができる。【知・技】 ・自分の意見を相手に伝えることができる。 【思・判・表】 ・伝える相手や宣伝目的を理解し、檜山茶について更に知ってもらえるように工夫しようとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで習得した知識を用いて、例題を参考にしながら4つのテーマに沿ってクイズを考える。 【知・技】 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報を活用できるように、檜山茶コーナーを用意する。 ・困っていることや相談したいことなどを付箋紙や電子メモパットでやり取りできるようにする。必要に応じて、付箋紙等の活用を促す。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・檜山茶の味や歴史、栽培地の気候を知る。 【知・技】 ・宣伝相手や宣伝目的を理解し、目的に合った宣伝内容を選ぶことができる。 【思・判・表】 ・相手を思いやった言動を考えて、自分の意見を伝えようとする。 【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・檜山茶コーナーや学習ファイルを見て、これまでの学習を確認し、檜山茶の特徴について4つのテーマに沿ってクイズを考える。 【知・技】 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報を思い出し活用できるように、檜山茶コーナーや学習ファイルを用意する。 ・必要に応じて、教師と一緒にキーワードを探し、例題を参考に作成するように言葉掛けをする。

(3) 学習過程

時間 (分)	学習活動	手立て・指導上の留意点
10:30 (10)	1 本時の学習内容やめあてを知る。	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習してきた知識の定着を確認するために、本時の学習活動の参考例となる、三択制と一問一答制のクイズを出題する。 これまでの学習を生かしてクイズを作れるように、学習の様子を写した写真や作成した資料を4つのテーマに分類し、「檜山茶コーナー」として掲示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて これまでの学習でまとめた資料を使って、檜山茶のよさや生産者の工夫・努力が伝わるクイズを作ろう。</p> </div>
10:40 (25)	2 クイズを作り、グループで話し合っってクイズをテーマ別に分ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Aグループ B、C、D (T2) ・ Bグループ A、E、F (T3) (全体：T1) <ol style="list-style-type: none"> (1) 1人でクイズを作る。 (2) 作ったクイズをグループで共有し、檜山茶に関わる4つのテーマ「味・香り」「歴史」「栽培」「収穫・製法」に分ける。 (3) 相手グループに出題するクイズを1人1問選び、グループ内でクイズの内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> お互いの意見を伝え、友達の意見をじっくりと聞く場面を設定するために、3人1組のグループを2組設定する。 校内の生徒や先生に、「知らなかった!」「檜山茶、すごい!」「とても気になる!」と言ってもらえるような、特徴や生産者の工夫・努力が伝わるクイズを作るよう伝える。 クイズの内容をイメージできるように、教師が導入で出題したクイズの文型や選択肢等を選び、参考にするよう伝える。 これまでの学習を思い出してクイズ作りに活用できるように、「檜山茶コーナー」や学習ファイルを参考にするよう伝える。 BやCは、考えたことをクイズにできるように、必要に応じて、記入すると話し言葉のクイズになる穴埋め式のワークシートを準備する。 Eが自分の意見を表出できるように、付箋紙や電子メモパットを用意する。 それぞれのクイズがどのテーマのものなのかを確認できるように、4つのテーマごとに区切られたホワイトボードを用意し、クイズを分類してホワイトボードに貼るよう指示する。 友達と相談し、協力してテーマの分類ができるように、T1は望ましい話合いの仕方を活動前に伝える。T2、T3は、必要に応じてその都度、相談の様子を即時評価する。 檜山茶の特徴や生産者の工夫・努力が伝わるクイズになっているか評価し合ったり、誤字・脱字等、改善が必要な箇所気付いたりできるように、グループ内でお互いが選んだクイズを見合う場面を設定する。
11:05 (13)	3 テーマごとに仕分けしたクイズを共有し、相手グループにクイズを出題する。	<ul style="list-style-type: none"> 全員で見て共有できるように、グループごとにホワイトボードを黒板に掲示させる。 これまでの学習を再確認し、更に深めるために、テーマごとの檜山茶のアピールポイントや生産者の工夫・努力などを見合い、気付いたことや分かったことがないか質問する。
11:18 (2)	4 本時の活動を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 檜山茶について分かったことや学んだことを基に、クイズを作ることができたことを称賛する。 校内での檜山茶の宣伝に向けた見通しがもてるように、次時は、今回のクイズに対する意見や反省を生かして、クイズを改良し、出題内容をまとめていく活動に入ることを伝える。

(4) 配置図



(5) 板書計画

(左黒板)

中2 お茶 プロジェクト	めあて	これまでの学習でまとめた資料を使って、檜山茶のよさや生産者の工夫・努力が伝わるクイズを作ろう。			
		Aグループ		Bグループ	
今日の活動		味	栽培	味	栽培
①檜山茶クイズにチャレンジ		香り		香り	
②檜山茶クイズを作ろう		歴史	収穫	歴史	収穫
③テーマごとに分類しよう			製法		製法

(右黒板)

檜山茶コーナー

(6) 評価の観点

- (生徒) ・これまでの学習で調べたことやキーワードを活用して、檜山茶のよさや生産者の工夫や努力が伝わるクイズを作ることができたか。
- (教師) ・これまでの学習をまとめた教具や、生徒が自分でクイズの内容や出題形式を選択・決定するための支援は適切であったか。

単元を通して育成する各教科等の主な内容

<p>中学部 国語 思考・判断・表現 1段階</p> <p>A 聞くこと・話すこと</p> <p>イ <u>話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること。</u></p> <p>ウ <u>見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて内容の大体が伝わるように伝える順序等を考えること。</u></p> <p>オ <u>相手の話の関心をもち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつこと。</u></p> <p>B 書くこと</p> <p>ア <u>見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめること。</u></p> <p>エ <u>自分が書いたものを読み返し、間違いを正すこと。</u></p>
<p>中学部 国語 知識・技能 2段階</p> <p>ア <u>言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</u> (エ) <u>理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やし、使える範囲を広げること。</u></p>
<p>中学部 社会 1段階</p> <p>ア 社会参加ときまり</p> <p>(ア) <u>社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</u></p> <p>㉞ <u>学級や学校の中で、自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりするなど、集団生活の中での役割を果たすための知識や技能を身に付けること。</u></p> <p>㉟ <u>集団生活の中で何が必要かに気づき、自分の役割を考え、表現すること。</u></p> <p>エ 産業と生活</p> <p>(ア) <u>仕事と生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</u></p> <p>㉞ <u>生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることが分かること。</u></p> <p>㉟ <u>仕事の種類や工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。</u></p> <p>(イ) <u>身近な産業と生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。</u></p> <p>㉞ <u>販売の仕事は、消費者のことを考え、工夫して行われていることが分かること。</u></p> <p>㉟ <u>消費者の願いや他地域との関わりなどに着目して、販売の仕事に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。</u></p> <p>オ 我が国の地理や歴史</p> <p>(ア) <u>身近な地域や市町村の様子に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</u></p> <p>㉞ <u>身近な地域や自分たちの市の様子が分かること。</u></p> <p>㉟ <u>都道府県内における市の位置や市の地形、土地利用などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。</u></p>
<p>中学部 理科 2段階</p> <p>イ 季節と生物</p> <p>(ア) <u>次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</u></p> <p>㉞ <u>植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。</u></p>

下線は、本時を通して育成する各教科等の主な内容

I 研究の実際

1 「しらかみの恵みを生かした学習活動」を基にした魅力ある単元設定と学習活動の質の向上

- ・年度初めに生活単元学習の中心単元の計画を学年で検討し、年間計画や関連する各教科等の目標や内容について確認した。

学年	主な単元名	内容
1年生	宿泊学習へ行こう、能代の情報誌を作る	フィールドワークなど、能代の魅力発信
2年生	G R O T 隊	三種町、藤里町の P R
3年生	能代を満喫しよう	白神ねぎを使ったラーメンの開発

- ・各学年の話合いでは、地域との関わりや生徒に育みたい資質・能力を検討するために、「白神の恵みを生かした学習活動」を基にした単元について（高：資料①）を活用した。
- ・生徒が意欲的に学習活動に取り組むことができるように、はじめに地域の方から P R などの依頼を受け、終わりには地域の方に成果を発表をするなど、地域との関わりを効果的に取り入れた単元づくりを行った。
- ・高等部 2 年生の公開授業研究会の提示授業のロールプレイを学部職員で行った。生徒が主体的に課題に迫るための教師の発問や指導方法について確認し合った。

2 生活単元学習において達成する「各教科等の目標及び内容」の検討

- ・学習活動と各教科等の目標及び内容を照らし合わせ、生徒に育みたい資質・能力を明らかにし、単元目標から本時の指導までの一貫性があるか協議して指導に臨んだ。
- ・各単元の個別の目標を立てる際には、個別の指導計画を活用して一人一人の目標が達成できるように検討した。

3 学習活動の工夫と I C T 機器の活用

- ・各学年で、知識・技能に当たる目標内容について、実感を伴った理解を図ることができるように、校外学習でその地域などを実際に訪れて確認する計画を立てた。
- ・生徒同士が協力し、共通の目的に向かって活動に取り組むことができるように、生徒の希望や学習効果を考慮した活動グループを編成した。
- ・一人一人の生徒の活動量を確保し、興味・関心や得意なことが授業の中で生きるように、グループの活動内容を工夫した。
- ・生徒が情報収集やその保存を行い、効果的な発表活動などを行うためにタブレット型端末等の I C T 機器を活用した。
- ・単元の計画段階や単元途中での話合いの時に、I C T 機器の効果的な活用について検討し、発語が難しい生徒の発表や画面を共有できるホワイトボードツールを使った話合い活動を学習に取り入れた。



〈白神山地世界遺産センターでインタビュー〉




〈ホワイトボードツールの活用〉

II 授業実践

1 各学年の実践について

高等部 1年	
単元名	宿泊学習へ行こう
目 標	(1) 公共の施設の利用方法や一般的なルールやマナーを身に付ける。【知・技】 (2) ブナなどの天然林や留山の歴史や役割について理解する。【知・技】 (3) 自然の中での体験を通して挑戦しようとする気持ちを高める。【思・判・表】 (4) 協力する大切さや仲間意識を高める。【学・人】
指導の実際	
(1) 単元設定 <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然に囲まれた、あきた白神体験センターでの宿泊体験にむけた学習は、1年生にとっては様々な活動の場に向けた準備や学習を主体的に取り組む環境を設定しやすく協力しながら活動できることから集団形成の機会としても期待できる。 ・山や海での活動に関連した内容では、ブナを中心とした木や森の役割、海にいる様々な生物について学び理科の目標及び内容を扱うことができる。また、公共の施設の利用に向けた学習では、公共の施設の役割や利用に関する規則など社会の目標及び内容に関連させて学ぶことができると考える。 (2) 学習活動の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・自然の中での活動において主体的に学習に取り組めるよう、生徒が興味・関心の高いシーカヤック体験や磯辺の生き物観察などの課題を選択し、設定した。 ・フィールドワークや観察活動を重視して、ブナ林の実際や歴史について実感を伴った理解を図るようにした。 ・共通の目的に向かい、一体となって活動に取り組むことができるように、生徒の希望やスタントの趣向を考慮してグループのメンバーを編成した。 ・グループ活動では、お互いの意見を十分に伝え合えるように、話し合いの場面やまとめた意見を発表する場面を設定した。また役割を分担するなど協力し合い、活動を最後までやりきることのよさを実感できるように、スタントなどを行った。 ・宿泊場所や公共の施設を使用する際のルールやマナーなどを具体的にイメージできるように、ICT機器を使って写真などを視覚的に示しながら確認した。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> ・学級単位ではなく、生徒一人一人の希望を基に小グループを編成したことで、好きなことや、やりたいことを共有し合い、打ち解けて学習を重ねることができた。 ・スタントの際、協力する必然性がある課題を設定することで、普段はマイペースで自分のやりたいことを中心に活動している生徒も、友達の見聞き、自分の意見と折り合いを付けながら準備に向かう様子が見られた。スタント本番では協力しながら楽しんで発表するなど、学級を超えて学び合う、学年集団としての基礎が築かれた。 ・公共の施設を利用する際のルールやマナーについて、事前にタブレット型端末で調べ、まとめた内容を発表する時間を設けたことで、必要性を伴う具体的な知識が身に付き、実際場で覚えた内容を自ら実践する姿が見られた。 	
課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・ブナなどの天然林や留山の歴史や役割について理解できるように、フィールドワークや観察活動を行ったが、当日の説明のみで生徒にどれだけ教科的な知識が身に付いたのかについては疑問が残る。事前学習で具体的な各教科等の主な内容を基に目標や学習内容を考え、単元を構成した方がよかった。 	

高等部 2年	
単元名	GROT隊～藤里町のお役に立ち隊編～
目標	<p>(1) 藤里町の観光名所や特産品を基にした観光コース作りの活動を通して、産業や携わる人々の工夫と努力を知る。【知・技】</p> <p>(2) パンフレットを制作する活動を通して、藤里町の産業や地理的環境の特色を捉え、観光という目的に合わせて考え、表現できる。【思・判・表】</p> <p>(3) パンフレット作りや藤里町の方への相談、報告をする活動を通して、相手の立場に立った考え方や適切な話し方、態度を身に付ける。【学・人】</p>
指導の実際	<p>(1) 単元設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒にとって身近な地域である能代山本地区の役に立つための活動を行う単元を継続している。昨年度は、三種町のじゅんさいを「若い人にもっと知ってもらいたい」という依頼を受けて、じゅんさいやその栽培農家の仕事について調べ、学校内外の人達に発信する学習を進めた。今年度は、生徒たちが藤里町を選択し、観光地や特産物を調べ「観光マップ」を作成し、成果を外部へ発表することで、身近な地域の産業やそこに関わる工夫などについて知識を深めることができると考えた。 調べた成果をより多くの人たちに発信するために、「観光マップ」をパンフレットとインスタグラムにすることにした。興味を引くレイアウトや配色、掲載記事の書き方について考えるとともに、SNSの利用における注意点や起こりうる危険などを考える場面を設定した。 実際に観光地を調べることで、相手の立場になった考え方や正しい敬語や態度、伝わりやすい話し方などを学ぶ機会になると考えた。 <p>(2) 学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> どのような「観光マップ」を作ればよいか分かりやすいように、対象者を「家族」、「友達同士」、「恋人同士」、「高齢者同士」にして、紹介する観光地や特産物を絞り込みやすくした。 見やすいパンフレットやインスタグラムの作成方法について理解し、工夫して作成できるように、地域で活躍するWebデザイナーの方を招いて学ぶ場を設定した。 それぞれの観光コースの全容や制作経過をJamboardを使って地図上に表し、成果を共有した。 パンフレットを作る時は、教えてもらった見やすいレイアウトや配色等を基に、テンプレートから組み合わせを選び、制作を進められるようにした。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 自分達から対象地域を選ぶことやどのような役に立つための活動をするかを考えるようになり、全員が興味・関心をもって地域について知ろうとする姿が見られた。 「観光マップ」の対象者の視点を意識し、自分の興味や関心だけではなく、他者の立場で物事を考えることができるようになってきた。 パンフレットづくりのテンプレートを選ぶ際に、Webデザイナーの方の視点を思い出し、見やすいレイアウトやインパクトのある写真選びなどについて相談し合う様子が見られた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍による影響があり、藤里町役場の都合で、生徒が直接やり取りする場面を設定できなかった。 タブレット型端末やパソコンを使用している制作活動は少人数での作業となり、分業が多くなった。全員で一緒に同じ物を作っている一体感も工夫が必要である。
	
	〈Webデザイナーからパンフレットについて学ぶ〉

高等部 3年	
単元名	能代を満喫しよう！～店舗販売に向けて～
目標	<p>(1) 能代山本地域の食材やそれに関わる生産者について知る。【知・技】</p> <p>(2) 様々な人の意見を参考にしながら製品を完成させ、相手の興味を引くPR方法を考える。【思・判・表】</p> <p>(3) 自分の役割を理解し、得意なことを生かしながら役割を遂行する。【学・人】</p>
指導の実際	
<p>(1) 単元設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象となる生徒は、1年次に能代山本地域の特色ある場所への校外学習を行ってきた。様々な体験を積み重ねる中で、「本物の体験」「深く味わう体験」が生徒の実態に合っていると分かった。 これまで食と自然に関する学習を行う中で、生徒から「なぜ能代にはラーメン屋が多いのだろう」という問いが生まれたことから、「ラーメン」を基に、能代山本地域の食材や物流の流れについて理解を深めることをねらいとして学習を展開した。 自己肯定感が低く、認められたいという思いが強い生徒の実態を踏まえ、市内のラーメン店「麵家麵四郎」の協力を得て、「本物」と関わり、認められる場面の設定を考えた。 <p>(2) 学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 「本物」の活動となり、物流の流れも学ぶことができるように、販売体験を行ったり、地域の経営者に学習に参画してもらったりした。 販売に向けた工夫の余地に気付くことができるように、小單元ごとの流れを大きく変えずに学習を展開した。 制作等の活動を行う中で、気付きを得て生徒同士が相談できるようにした。 グループ学習では、本人の希望や学習効果を考えたグルーピングを行った。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> 地域の経営者に参画してもらい、自分たちのアイデアを評価してもらい機会を設定したことが、学習に取り組む意欲につながった。また、経営者（「本物」）に認められる経験をしたことで、自信をもって活動できるようになった。 販売した人へのアンケートを実施したことで、周囲の意見も参考にしながら、自分の意見とすり合わせて考えを深めることができるようになった。 学習の流れの固定化や適切なグルーピングを行ったことで、見通しをもって活動に取り組み、生徒同士が協力し合う様子が見られるようになった。 	
	
<p>〈オリジナルラーメンの開発〉</p>	
課題	
<ul style="list-style-type: none"> 「ラーメン」を基にした学習に内容を絞ったことで、白神ねぎなど、一部の能代山本地域の食材について学習が深まったものの、他の名産などへ広がりをもたせることが難しかった。 	

2 授業研究会について

令和4年度 第1回 全校授業研究会	
期日	令和4年7月8日(金)
学年・単元名	高等部2年「GROT隊～じゅんさい農家のお役に立ち隊～」
グループ協議で出された改善の要点	<ul style="list-style-type: none"> ・単元や授業のゴールを明確にするためには、学習の成果が分かる活動や掲示を工夫できるとよい。 ・生徒が話し合いを進行することができるように、教材・教具の準備や教師の対応を考えておく。 ・若い人にPRするには、InstagramやYouTubeなどのSNSを活用することも有効ではないか。
指導助言① (教育専門監 渡部陽子)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度からの継続単元で、生徒は見通しをもち、時間いっぱい取り組んでいた。じゅんさいの館や役場に直接行く活動がよい。 ・集団、個別でどのような資質・能力を身に付けさせたいのか、単元目標の焦点化を図る必要がある。 ・生徒が目的意識、課題意識をもてるようにする。単元名は生徒が見て内容が分かるようにする。 ・学びの価値を実感するには、アンケートやインタビューを行い、自己評価と他者評価を比較したり、相手に役立った、喜んでもらったことが分かるとよい。
指導助言② (教頭 佐藤圭吾)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標は、活動ではなく何をねらうかが分かるように示す。「知識・技能」は知る、理解を深める。これをどのように使うか示したものが「思考力・判断力・表現力」である。 ・「単元を通して育成する各教科等の内容」は、何を指導するか明確に押さえる。 ・PRするためのグッズ作りは生徒よりもプロの方が適切なのではないか。生徒には、若い人に興味をもってもらう方法を考えてほしい。 ・単元のゴールをイメージして、何をどう変えていくのかもっと具体的に考えていけるとよい。 ・生徒主体で進めるには、教師はもっと離れる必要がある。 ・知識・技能を付けるために過不足ない支援が求められるが、教師が先回りをして支援していないか注意が必要である。生徒には、自分から支援要求をしてほしいので、そのような場面が経験できる場の設定が大事である。

令和4年度 公開授業研究会(高:資料②)	
期日	令和4年9月8日
学年・単元名	高等部2年「GROT隊～藤里町のお役に立ち隊～」
グループ協議で出された改善の要点	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器が効果的に活用されていた。Jamboardの活用方法がもう少し工夫できたのではないか。 ・ICT機器を使用する時間と生徒同士がやりとりしながら対話をする時間のバランスを工夫できるとよい。 ・生徒が行ってみたい、楽しいという活動が先にあるとよい。体験的活動が先にあると生徒からの意見や考えが生まれやすいのではないか。
指導助言 (進藤拓歩指導主事)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標は丁寧に練られ立案されている印象をもった。どの目標にも、「～を通して」という一文があり、学習活動を通したねらいが分かる目標であった。 ・本単元で「観光客がいなくて困っている」という実感を生徒がもつことができたか。地域を生かした学習活動において、生徒が実感を伴う活動となっているかが大切である。

- ・本時の目標を達成するために活動内で生徒が考え合うための想定はどうなっていたか。教師側が予想して仕掛けを用意し、指導案に反映する。
- ・「観光コースを決める」というめあてだったが、「スポットを選ぶ」要素が強かった。めあては授業の根幹なので、精選が必要である。
- ・ICT機器の活用には各教科等の視点と自立活動の視点がある。効果を最大限活用できるよう、継続的な研究が必要である。
- ・「分かった」「できた」「もっと知りたい」の意味は様々ある。生徒が実感を伴い「分かった」と感じることができると、「もっと知りたい」という意欲が自然と芽生えてくる。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

(1) 育みたい資質・能力を明確にした目標設定

- ・育みたい資質・能力を明確にした学習指導案（全：資料③）の作成を通して、「単元を通して育成する各教科等の主な内容」を明らかにすることで、生徒に育みたい資質・能力を教師間で共有し、単元計画や学習活動の整理を図った。各授業でのねらいが明確になり、学習内容の改善につながった。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

- ・「しらかみの恵みを生かした学習活動」である、地域の「人、もの、こと」を活用する単元を各学年の実態に合わせて設定したことで、地域の方々と交流して学習を行うなどの魅力ある活動を展開できた。生徒が課題解決に取り組もうとする意識が高まり、2年生は興味・関心をもって学習の対象地域について知ろうとし、3年生はオリジナルラーメンの改良を重ねるなど、目的意識をもって学習に取り組むようになった。
- ・生徒の希望や実態に応じたグループ活動の設定を工夫したことで、協働して課題解決に向かう姿や、友達の意見と折り合いをつけながら自分の役割を果たそうとする姿が多く見られ、生徒の達成感につながった。
- ・交通手段や感染症等で制約がある中でも、生徒が具体的にイメージをもって学習に取り組むことができるように、実際の特産品や教師が撮影した地域の映像などを計画的に準備して、その活用方法を検討した。
- ・タブレット型端末などのICT機器を計画的に活用することで、学習の成果を動画にまとめて発表する、調べたことについて話し合うなどの活動が効果的に実施できた。効果的な実践を繰り返すことで、生徒は、検索の仕方や情報を取捨選択する力が上達し情報活用能力が高まりつつある。

(3) 効果的な授業改善の蓄積

- ・既習の知識・技能を生かし、発展的に繰り返す単元設定が主体的な学びを促す上で有効であった。2年生は、昨年度十分にできなかった学習活動に継続して取り組み改良した。3年生は学習の展開の順番を大きく変えず小単元を繰り返した。生徒は、手順や課題の解決方法にある程度の見通しをもっており、活動をやり遂げたいという気持ちでレベルアップした課題に意欲的に取り組んだ。
- ・地域の役場や施設などで学習の成果を発表したことで、生徒が地域の方の反応を直に感じることができた。喜んでもらい感謝されることで、地域の中で役に立っていることが分かり、次の活動への意欲につながった。また、アンケートを用いて地域の方に学習の成果を評価してもらったことで、生徒が自信をもって活動するようになった。
- ・ICT機器のよりよい使用について、授業で活用できそうなオンラインでのアンケートツールや電子ホワイトボードツールなどの研修を学部職員で実施したことで、教師側が積極的にこれらのツールを使用するようになった。

2 課題

(1) 育みたい資質・能力を明確にした目標設定

- ・育みたい資質・能力を明確にした学習指導案（全：資料③）の「単元を通して育成する各教科等の主な内容」などを活用して、生徒に育みたい資質・能力を明確にして指導に臨んでいるが、その評価なども含めて、今後も吟味を重ねていく必要がある。
- ・単元の中には、生活単元学習以外の学習でも指導が必要な資質・能力が含まれている。生活単元学習の活動内容に関連する各教科等の内容と、「自分の意見を伝えること」などの各授業を横断して指導する内容を整理し、関連付けて指導するよう努めたい。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

- ・「しらかみの恵みを生かした学習活動」は、生徒の学習意欲につながり有効である。その単元の構成や学習活動などに一層の充実を図りたい。
- ・タブレット型端末やパソコンを使用している制作活動は、個別の活動や小グループでの作業には適しているが、共通の課題に向かっていることが分かるように、途中経過や成果を全体で共有する授業構成の工夫が必要だった。

「しらかみの恵みを生かした学習活動」を基にした単元について

学部・学年 (高等部・1年)

単元名

年間の主な活動内容

4	5	6	8	9	10	11	12	1	2	3
	選挙権 前期学習 に向けて	6/30~7/1 宿泊学習	宿舎を 残して 生単に入る	エデュカル 学旅探に 向けて	1/4後期学習	春	夏	生単		

活動内容に関連する各教科等の内容

理科

・植物のしめ

・秋晴

・国語

・社会

・数学

・ラメの塩分濃度

アクティブラーニングを繰り返してやる

地域の魅力発信

SDGs

SDGs

→ 能代市観光協会、リゾート等と連携

・ 制作し感想を伝えるためのよく製法として取り入れる

・ 地域をいよいよ2年計画で作成

・ 宿泊学習から地域に興味のめれば動画制作に力を入れる

・ 能代のエネルギー、風力発電

デジタルICT推進!!

他学年などに協力を図ること、活動の工夫ができること

グルメ アプリケーション

高等部 2 年 生活単元学習 学習指導案

日 時 令和 4 年 9 月 5 日 (月) 10 : 30 ~ 11 : 20
 場 所 音楽室
 授業者 佐藤 尊 (T 1) 妻野聖花 (T 2)
 橋本 基 (T 3) 菅 奈穂 (T 4)
 平塚朋子 (T 5)

1 単元名 G R O T 隊～藤里町のお役に立ち隊編～

2 単元の目標

- (1) 藤里町の観光名所や特産品を基にした観光コース作りの活動を通して、産業や携わる人々の工夫と努力を知る。 【知・技】
- (2) パンフレットを制作する活動を通して、藤里町の産業や地理的環境の特色を捉え、観光という目的に合わせて考え、表現できる。 【思・判・表】
- (3) パンフレット作りや藤里町の方への相談、報告をする活動を通して、相手の立場に立った考え方や適切な話し方、態度を身に付ける。 【学・人】
- 【知・技】 知識・技能 【思・判・表】 思考力・判断力・表現力 【学・人】 学びに向かう力、人間性等

3 生徒と単元

(1) 生徒について

本学年は、男子 8 名、女子 6 名の 14 名からなり、男子 1 名は座位保持装置を使用している。多くの生徒は全体への指示を概ね理解して活動に参加することができるが、視覚優位の生徒が多いため、板書、動画、写真、絵、身振りなどを使用した指示が有効である。日頃から、発表や人前に入る活動などに苦手意識をもつ生徒が多いが、場面を想定した練習を繰り返し行うことで自信をもって活動に参加する姿が増えてきた。昨年度から、地域を知り、貢献することを通して人の役に立つ達成感や自己有用感を育む「お役に立ち隊」の活動を行ってきた。今年度は生徒が話し合っ活動の名称を「G R O T 隊」と変更した。各学級目標の「成長 (Growth)」、「Rainbow」の頭文字、「O (お役に) T (立ち) 隊」の造語である。前単元ではじゅんさいを若い人たちにも知ってもらえるように、じゅんさいを調べ P R 動画を作成し、三種町役場やじゅんさいの館に向けて発表をした。生徒たちは誰かの役に立ちたいと日頃から思い、積極的に役割や仕事を求めるが、相手や場を意識した態度、話し方が適切でない場面が見られる。I C T 機器について、自宅ではタブレット型端末やスマートフォン、パソコンを日頃から使用している。S N S を利用し、チャットや動画視聴などを行っているため、機器の基本的な操作には慣れている生徒が多い。

(2) 単元について

藤里町は生徒たちが生活する能代山本地区の一つであるが、本学年の生徒には出身者がいない。これまでの学習の中で関わりがなかったことに生徒が気づき、「藤里町の役に立つ活動をしよう」という意見が、前単元のまとめの学習の際に生徒から出たことから、本単元の活動地を藤里町に決定した。

藤里町の魅力を知り、多くの人に向けて発信する学習は、今まで知らなかった能代山本地区の良さを改めて知り、郷土への愛着を深めることができると考える。藤里町の観光名所や名産品、特産品を町のことを知らない人に知ってもらうために町の魅力を調べ、観光コースを作成し、多くの人に読んでもらえるようにパンフレットにまとめる。この活動を通して身近な地域の産業の特色や携わる人々の工夫や努力を知る機会としたい。完成したパンフレットのデータを藤里町役場のインスタグラムに掲載してもらう活動を設定することで、藤里町の方々と関わりながら、相手を意識した話し方や態度、文章のまとめ方、情報を適切に扱う力を育てることができると考え本単元を設定した。

(3) 指導について

- ・活動の意欲や目的意識を高めるため、藤里町役場の協力を得て、活動のきっかけづくりやパンフレット作りのアドバイスを受ける場面を設ける。
- ・観光客の視点に立って観光名所を選択できるように、家族向け、友達同士向け、恋人同士向け、お年寄り向けの4つのコースを用意する。
- ・作成した観光コースの改善につなげるために、実際に現地に行って体験できる機会を設ける。
- ・生徒同士が考えを共有できるように、オンライン上で使えるホワイトボードを使用する。
- ・相手意識を育て日頃の生活につなげるために、校内の職員に向けた発表や藤里町の方への相談や報告の前に、適切な関わり方を事前に考える場面を設定する。
- ・より多くの人に見てもらい達成感を味わうために、藤里町役場のInstagramに掲載してもらう。
- ・見通しをもって学習活動に取り組めるように、学習計画表を作成し活動の進行状況を確認する場面を設ける。

4 指導計画（総時数 40時間）

小単元名	目 標	指導する教科等	主な活動内容	時数
藤里町を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・藤里町の人口や気候、地理的な立地等、基本情報を知る。 【知・技】 ・特産品、観光名所を調べ、魅力や特色が分かる。 【知・技】 	社会 職業	<ul style="list-style-type: none"> ・藤里町役場職員から、活動依頼を受ける。 ・藤里町の基本情報と特産品、観光名所をタブレット型端末で調べて一覧にする。 	4
藤里町の観光コースを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・藤里町の特色や魅力を基にした観光コースを考える。 【思・判・表】 ・産業に携わる人々の努力や工夫について知る。 【知・技】 ・調べたことやインタビューから観光コースの紹介文を考える。 【思・判・表】 ・適切な話し方や態度で発表する。 【学・人】 	国語 社会 職業	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにキーワードを決める。 ・各グループでキーワードを基に、観光スポットを選び、観光コースを決める。 ・現地に行き、観光コースを試行したり、インタビューをしたりして改善する。 ・観光コースの紹介文を書く。 ・観光コースを藤里町役場へ向けて発表する。 	16 (構 3/16)
藤里町の観光コースをパンフレットにまとめよう	<ul style="list-style-type: none"> ・観光コースや紹介文が相手に分かりやすく伝わるような方法を考え、パンフレットにまとめる。 【思・判・表】【学・人】 ・情報の適切な扱い方を知る。 【知・技】 ・相手や場を意識した態度と話し方で活動報告をする。 【学・人】 	国語 社会 職業 情報	<ul style="list-style-type: none"> ・内容と構図を決め、パンフレットを作成する。 ・完成したパンフレットをInstagramに掲載できるように、文章や写真を確認する。 ・藤里町役場のInstagramに掲載する。 ・藤里町の方に活動報告をする。 	20

5 本時の計画（総時数40時間中の7時）

(1) 全体の目標

- ・自分やグループの考えを発表する活動を通して藤里町の観光スポットを選び、協力して観光コースを考え、分かりやすく表現する。 【知・技】【思・判・表】

(2) 個別の目標と手立て

氏名	単元の目標	本時の目標	目標達成の手立て
A	・藤里町の人口や地理的立地等の基本情報を、自身の居住地と	・グループごとに決めたキーワードに沿って観光スポットを	・キーワードを意識できるように、ホワイトボードに提示す

	<p>比べ概要を知る。【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> パンフレットの制作を通して調べたことを分かりやすい文章構成でまとめる。 <p>【思・判・表】</p>	<p>選び、相手に伝わるように発表をする。【思・判・表】</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手に伝わるように発表する選択肢として、写真や動画を準備する。
B	<ul style="list-style-type: none"> 現地に訪れることや、実際の物に触れることで、藤里町の魅力を知る。【知・技】 提示された物から選択し、自分の意思を表出する。 <p>【思・判・表】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指差しやVOCAアプリの操作をし、選んだ観光スポットや自分の気持ちを友達に伝える。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを伝えることができるように、日常生活でも使用しているVOCAアプリを準備する。
C	<ul style="list-style-type: none"> 観光コースの立案や、パンフレットの制作を通して藤里町の特産品や観光名所を知る。【知・技】 観光コースの立案や、パンフレットの制作を通して、複数の情報の中から伝えたいことを明確にしてまとめる。 <p>【思・判・表】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の伝えたいことを明確にし、相手に伝わるような文章表現で発表する。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことを明確にできるように、ワークシートを使用して、考えを整理する場面を設ける。
D	<ul style="list-style-type: none"> 藤里町には豊かな自然を生かした観光スポットがあることに気付く。【知・技】 藤里町の観光スポットを決める活動を通して、自分の意見をもち、理由付けして友達に伝える。【思・判・表】 相手に聞こえる声の大きさや、適切な姿勢を意識して、発表や活動報告をする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> 理由を明確にして、自分の意見をグループ内の友達に伝える。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 明確な理由を考えることができるように、観光スポットの写真や映像を見比べる場面を設定する。 自分の意見を伝えることができるように、話しやすい友達との小グループを構成する。
E	<ul style="list-style-type: none"> 藤里町のお勧めを決める活動を通して、藤里町にどのような観光名所や産業があるのか知る。【知・技】 パンフレットの記事に調べた情報をまとめる活動を通して、伝えたいことを相手や目的を意識して分かりやすく書く。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> お年寄りの立場に立って観光地を考え、根拠をもって発表する。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場に立って観光地を考えることができるように、福祉の学習や介護実習の経験を生かしてお年寄りの生活や身体機能を想起する場面を設ける。
F	<ul style="list-style-type: none"> 観光場所を決める活動を通して、藤里町の観光名所の特徴を知る。【知・技】 観光コースやパンフレット作りの活動を通して、調べた情報を整理してまとめる。【思・判・表】 場や相手を意識した適切な態度や言葉遣いで発表や活動報告をする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> お年寄りを対象とした観光地を調べ、相手に伝わるように発表する。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 対象を意識することができるように、福祉の学習や介護実習の経験を生かし、お年寄りの体力や歩き方などを想起する場面を設ける。 相手に伝わるように発表する手段として、現地の様子が分かる写真や動画を準備する。
G	<ul style="list-style-type: none"> 藤里町の特産品を調べ、どこ 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の観光スポットの中から 	<ul style="list-style-type: none"> キーワードに沿った観光スポ

	<p>で、どのように食べることができるか知る。【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤里町の観光場所を決める活動を通して、自分の意見を持ち自分の考えを発表する。【思・判・表】 ・友達の発表を聞き、相手に伝わる声量で自分の役割を果たす。【学・人】 	<p>キーワードに沿った観光スポット選び発表する。【思・判・表】</p>	<p>ットを選べるように、写真や動画を友達と見比べ、意見を交わす場面を設定する。</p>
H	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が知っている藤里町の情報や名所について、理解を深める。【知・技】 ・調べた魅力が読み手に伝わるように、情報をまとめる。【思・判・表】 ・パンフレットの作成やSNSでの発信時に、相手を意識した適切な言葉で表現する。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ観光スポットが藤里町の特色を生かした場所であることや対象の観光客に向けている理由をグループの友達に伝える。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を友達に伝えられるように、ワークシートに自分の意見をまとめる時間を設定する。
I	<ul style="list-style-type: none"> ・藤里町の名所や特産品をタブレット型端末で調べ、藤里町の魅力に気付く。【知・技】 ・藤里町の基本情報や特産品、名所などの調べた情報をグループの友達と地図上に表す。【思・判・表】 ・相手を意識した正しい敬語を使い、相手の方向を向いて発表や活動報告をする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ観光スポットについて選んだ理由を地図や写真を使用しながら簡潔に伝える。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードを手掛かりに必要な地図や画像を選べるように、手元におけるキーワードが描かれたプリントを準備する。
J	<ul style="list-style-type: none"> ・現地を訪れることや実際に物に触れることで藤里町の魅力を知る。【知・技】 ・自分の考えや選択した物について適切な関わり方で表現し、伝える。【思・判・表】【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・指さしや身振り、写真やVOCAアプリを使って選んだ観光スポットや選んだ理由を伝える。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のこととして考えられるように家族写真を準備する。(担当テーマが「家族」のため) ・気持ちを伝える場面を多く設定できるように、友達と一緒に調べるようにする。
K	<ul style="list-style-type: none"> ・藤里町にはどのような名所や特産品があるかが分かる。【知・技】 ・パンフレットに、何がお勧めであるか自分の意見を踏まえて表現する。【思・判・表】 ・SNSのメリット・デメリット、利用する際のマナーを理解して、発信する。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を踏まえながら、テーマやキーワードに沿った観光スポットを選ぶ。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と観光スポットを決められるように、最初に複数の候補地を選ぶ時間を設定する。
L	<ul style="list-style-type: none"> ・藤里町のCMやパンフレットを見てテーマに合った名所や特産品をタブレット型端末で調べ、その特徴を知る。【知・技】 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で調べた藤里町の観光スポットを相手に内容が伝わるように発表する。【思・表・判】 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に内容が伝わるように考えを整理する穴埋め式のワークシートを使用する。

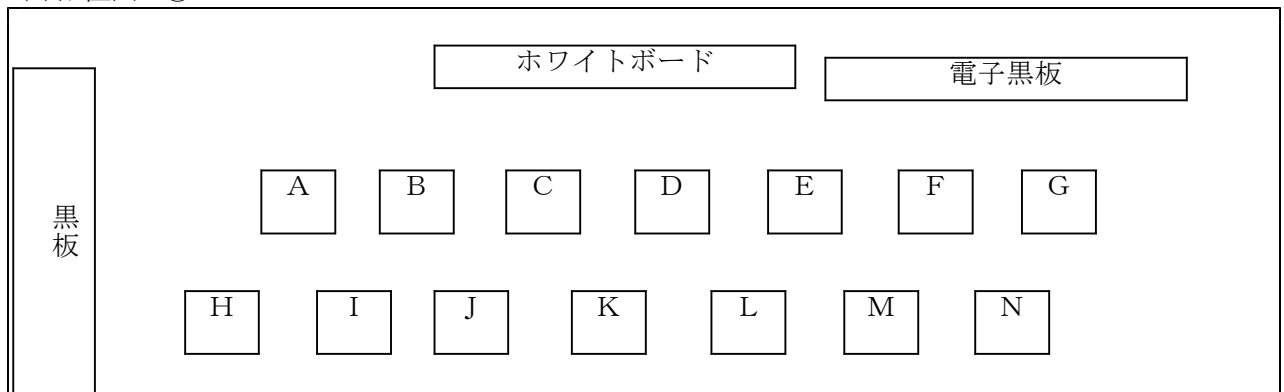
	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を意識した適切な態度や丁寧な話し方で発表や活動報告をする。 <p>【思・判・表】【学・人】</p>		
M	<ul style="list-style-type: none"> ・藤里町の特産品や観光名所の特徴を理解する。 【知・技】 ・藤里町の魅力が読み手に伝わりやすいように、文章や構図を考える。 【思・判・表】 ・SNSを発信する際に、不特定多数の利用者を意識した発信をする。 【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで出た意見をまとめて、聞き手が分かりやすいように発表原稿を考える。 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表原稿の一文一文が適切な長さや言葉遣いになるように、発表前に発表原稿を確かめる時間を設定する。
N	<ul style="list-style-type: none"> ・藤里町の観光コースを決める活動を通して、藤里町の特徴を生かした名所や特産品があることを知る。 【知・技】 ・観光コースやパンフレットを作る活動を通して、自分の考えを相手が分かるように伝える。 【思・判・表】 ・相手に伝わるような発表の仕方を考え、発表や活動報告の場面で実践する。 【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光コースを決める活動で、自分の考えた意見を相手に伝わるように発表する。 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に自分の意見を伝えることができるようワークシートや動画、写真を提示しながら発表する場面を設定する。

(3) 学習過程

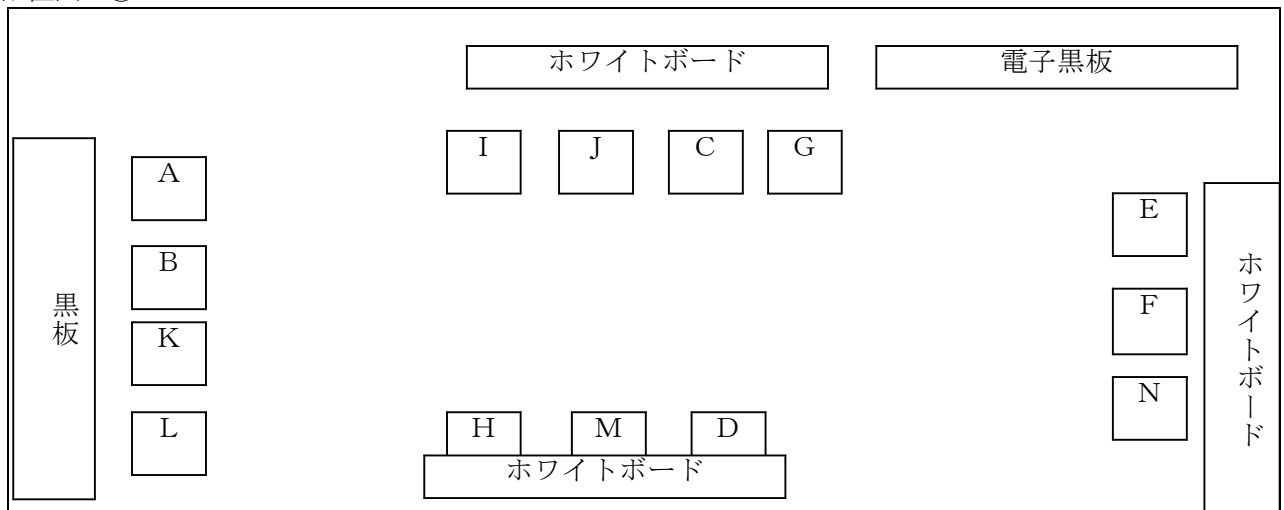
時間 (分)	学習活動	手立て・指導上の留意点
10:30 (5)	1 本時の学習内容とめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって学習に臨めるように、学習計画表を提示する。 ・進行状況と本時の内容を生徒主体で確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 本時のめあて 藤里町の魅力が分かる観光コースを決めよう。 </div>
	2 各グループで藤里町の観光コースを決める。 対象とグループ分け 家族：C、G、I、J T3 友達：A、B、K、L T2T4 恋人：D、M、H T5 お年寄り：E、F、N T1	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識をもてるように、依頼内容「観光客を増やしてほしい」を黒板に掲示する。 ・藤里町の魅力を確認できるように前時までの学習で使用したワークシートを使用する。 ・生徒が主体的に学習に臨めるように、生徒の実態に応じたペアを設定する。 ・タブレット型端末を使用する際は、聴覚過敏の生徒に配慮し、音量を下げた状態から徐々に音量を上げていくことを伝える。
10:35 (20)	(1) 個人の意見を発表する。 ・グループのキーワードを基に観光スポットをタブレット型端末で調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容を明確にするために前時で決めた各グループのキーワードを提示する。(キーワードの例：ゆっくりと楽しむ、思いっきり遊ぶ、小さい子でも楽しめる、ロマンチックな、など) ・考えを整理することができるように、穴埋め式のワークシートを準備する。 ・観光スポットを選びやすいように観光地の情報が載っているウェブページを提示する。

10 : 55 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを発表する。 <p>(2) グループで観光コースを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての意見を「Jamboard」に入力し観光コースを作成する。 ・発表の原稿を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地の動画や写真を示し、発表の際に活用できることを伝える。 ・相手に考えが伝わるように実態に応じて発語に代わるVOC Aアプリを活用できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・観光コースの全容や全体で意見の共有ができるように、オンライン上で使えるホワイトボード「Jamboard」を使用する。 ・全体のテーマに沿っているか確認する場面を設ける。 ・発表原稿と相手に伝わる方法を考えることができるように、例文をワークシートに示し参考にできることを伝える。
11 : 05 (13)	3 各グループで決めた観光コースを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・他者評価を受ける機会として、藤里町のどんな魅力が含まれていたかや感想を伝える場面を設定する。 ・各コースに藤里町の魅力が含まれており、観光客を増やすために多くの人に魅力を広めていくことを確認する。
11 : 18 (2)	4 次時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時も見通しをもって学習に臨めるように、進行状況を学習計画表で確認する。 ・今回考えたコースを実際に校外学習で検証するために、道順やスタート地点を距離や時間を踏まえて決めていくことを確認する。

(4)配置図 ①



配置図 ②



(5) 板書計画

GROT隊 ～藤里町のお役に立ち隊～			
めあて <u>藤里町の魅力が分かる観光コースを決めよう。</u>			
全体のテーマ	藤里町の魅力	(電子黒板) 「Jambord」を表示	次回の活動
・藤里町だから 楽しめる	・ ・		・道順を考える ・スタート地点を考える
活動依頼内容	・		
・観光客を 増やしたい	・		

(6) 評価の観点

(生徒)・藤里町の観光スポットを選び協力して観光コースを考え、相手に伝わりやすいように工夫して発表できたか。

(教師)・協力して話し合い、相手に伝わりやすいように表現するための手立ては適切であったか。

単元を通して育成する各教科等の主な内容

高等部 国語 1段階
ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(ア) 社会生活に係る人とのやりとりを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 【知・技】
(カ) 日常よく使われる敬語を理解し使うこと。 【知・技】
高等部 国語 1段階
B 書くこと
ア 相手や目的を意識して、書くことを決め、集めた材料を比較するなど、伝えたいことを明確にすること。 【思・判・表】
ウ <u>自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。</u> 【思・判・表】
エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えること。 【思・判・表】
高等部 社会 1段階
エ 産業と生活
(ア) 我が国の農産や水産業における食料生産に関わる学習を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
㊦ 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現する。 【思・判・表】
オ 我が国の国土の様子と国民生活、歴史
(ア) 我が国の国土の様子と国民生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
㊧ <u>地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること。</u> 【知・技】
高等部 職業 1段階
A 職業生活
ア 勤労の意義
勤労に対する意欲や関心を高め、他者と協働して取り組む作業や実習等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(イ) 意欲や見通しをもって取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者との協力について考え、表現すること。 【思・判・表】
B 情報機器の活用 職業生活で使われるコンピューター等の情報機器を扱うことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 情報セキュリティ及び情報モラルについて知るとともに、表現、記録、計算、通信等に係るコンピューター等の情報機器について、その特性や機能を知り、操作の仕方が分かり、扱えること。 【知・技】
イ 情報セキュリティ及び情報モラルを踏まえ、コンピューター等の情報機器を扱い、収集した情報をまとめ、考えたことを表現すること。 【思・判・表】

高等部 情報 2段階

A 情報社会の問題解決
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
(ア) 身近にある情報やメディアの基本的な特性及びコンピューター等の情報機器の基本的な用途、操作方法及び仕組みを踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を知り、問題を解決する方法を身に付けること。 【知・技】
(イ) 情報に関する身近で基本的な、法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解すること。 【知・技】

下線は、本時を通して育成する各教科等の主な内容

I 研究テーマ

「掃除活動における生活指導の在り方」（2年次／2か年計画）～将来を見据えた掃除のスキルアップを目指して～

II 昨年度（1年次）の成果と課題

1 昨年度の成果

昨年度は、掃除の必要性についての学習会や拭き方・掃き方・掃除機の掛け方、場所に合わせた掃除の仕方について学ぶ機会を設けたことで、技術の向上が見られた。特に、個々の実態や特性に応じた指導内容や手立てを設定し、振り返り表を活用したことで、技術の習得につながった。また、職員間で掃除の指導の仕方を見合ったことで、指導内容やポイントを共有でき一貫した指導ができた。次年度以降職員が替わっても同じ指導を継続できるように、指導の際に活用している「パワーアップブック」に手順やポイントを追記した。

2 昨年度の課題

普段、数名で1つの掃除箇所を分担して行っており、割り当てられた所は責任をもって行うことができるが、一つの箇所を全て一人でやる経験がないため手順が分からない生徒が多い。また、普段の寄宿舎での生活や保護者アンケートの結果より、習得した掃除の基本的な技術を他の場面で生かすことができない点が課題として挙げられている。

III 今年度（2年次）の研究

昨年度の課題を受けてサブテーマを変更し、2年次の今年度は将来を見据えたスキルアップを目指し、昨年度習得した掃除の技術をベースに、一つの箇所を一人で掃除の全工程を行うことや寄宿舎以外の場所で掃除の技術を応用する長期休業中の家庭での掃除に取り上げることにした。

1 研究仮説

生徒が将来を見据えながら、意欲をもって取り組むことのできる学習の場や環境を設定し、一人一人の実態に合わせた目標や手立てを職員間で共有して指導に当たることで、掃除のスキルアップにつながるのではないかと。

2 研究内容・方法

- (1) 実態把握と、保護者・生徒アンケートの実施
- (2) 指導方法の検討（学習会、一斉指導、日常指導）共有（学校、寄宿舎、保護者）
- (3) 生徒一人一人に合わせた目標・環境の設定、共有
- (4) ICT機器を活用した指導や学習会の実施や職員対象のICT機器研修

3 研究計画

月	研究日の内容	主な活動内容	ICT機器研修
4	今年度の研究テーマ・概要		
5	今年度の進め方 学習会①について	実態把握① 掃除一斉指導	ICT機器利用についての オリエンテーション
6	学習会②について	学習会①（スタンプラリー①）	職員アンケート
7	学習会②の振り返り	学習会②（スタンプラリー②） 保護者アンケート①	
8	夏休みの家庭掃除について	夏休み 家庭で掃除	
9	掃除箇所の検討・設定	公開研ポスター発表	動画編集研修①
10	指導の振り返り・修正	一人で掃除期間	
11	学習会③について	一人で掃除期間	動画編集研修②

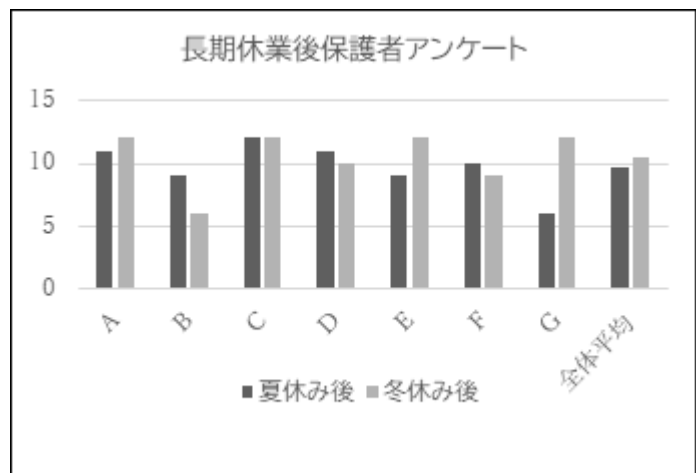
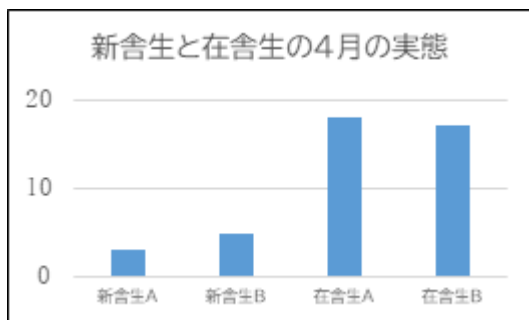
12	今年度のまとめ	学習会③ 保護者アンケート②	動画編集研修③
1	日常生活指導へ向けて	冬休み 家庭で掃除 実態把握②	バーチャル・リアリ ティ体験
2・3	次年度の研究に向けて	一人で掃除期間	動画編集研修④

4 研究経過

(1) 実態把握と、保護者・生徒アンケートの実施

実態把握から新入舎生と継続入舎生の実態差が大きいことが分かった。実態差を生かし、生徒をロールモデルにした一斉指導・学習会を行った。

保護者には長期休業前後にアンケートを行った。休み前には寄宿舍での取組を伝えた上で、家庭で取り組んでほしい掃除について生徒の希望と合わせながら決定し、長期休業中の家庭での掃除を実践した。



(2) 指導方法の検討（学習会、一斉指導、日常指導）共有（学校、寄宿舍、保護者）

掃除に興味をもち意欲的に取り組む学習会（掃除スキルアップDAY）を検討した。掃除の基本を学ぶ一斉指導では、掃除の項目ごとに会場を分け、実態差を生かしスキルの高い生徒をロールモデルとして配置し、手本を示す形とした。新入舎生を含むその他の生徒たちは、実態が近い生徒ごとに小グループをつくり、一緒に会場を回りながら各掃除の基本を学んだ。生徒同士が認め合い、学び合う環境設定が効果的だった。学習会後に生徒へ振り返りのアンケートを行ったところ「先輩の教え方が分かりやすかった。」「家でも掃除をやってみよう。」と掃除への興味・関心や意欲の高まりが見られた。この成果を基にその後の学習会の内容を検討した。

先述した学習会の内容を踏まえ、生徒が興味をもち意欲的に掃除に取り組めるようスタンプラリー形式での掃除の学習会を実施した。掃除箇所や指導内容は、将来に向けて必要と思われる箇所と指導内容や教え方について実際に見合う機会を設定し、全職員で内容を検討・共有した。

また、生徒の実態に合わせてスタンプカードの項目や目標を設定しグルーピングした。一人一人に合わせた目標設定ができるように、スタンプカードの項目に「担当」「夏休み」の枠を設けた。

本校中学部の掃除学習「正しく用具を使って掃除をしよう」では、寄宿舍指導員が講師、寄宿舍生がロールモデルとなって掃除スタンプラリーを行った。学部職員と目標や内容を検討し、実践を通して共有した。また、寄宿舍で行っている日常生活指導を保護者に紹介する「パワーアップSYAミナー」では保護者と掃除の仕方について指導を共有した。



〈スキルアップDAYの様子〉



〈スタンプラリーの様子〉



〈中学部 掃除学習の様子〉



〈パワーアップSYAミナーの様子〉

(3) 生徒一人一人に合わせた目標・環境の設定、共有

毎日の掃除の仕方を、部屋メンバーで協力して行う掃除から、一人一箇所を掃除する形に変更した。これまでに習得した技術を生かして一人で掃除の全工程ができるように、各部屋担当が生徒の課題から目標や掃除箇所を決めて、職員全体で個々の実態に合わせた掃除箇所の調整を図り、一人一箇所の掃除を実践した。掃除の際は担当職員が変わっても着目ポイントが分かるように、「全工程を時間内に行う」「部屋の奥から畳の目に沿って掃除機を掛ける」「雑巾は縦絞りをする」等、個々の目標と課題を日々の記録用紙に挙げ、ポイントを踏まえた記録をつけた。また、一定期間を経たあと職員間での話し合いの場を設定した。記録を基に課題や成果から指導ツールについての検討を行い、その後の指導に生かすことができた。本人がいつでも掃除の仕方を確認できるように、ほうきの持ち方や動かし方、机上の拭き方について掲示物等のツールが有効であり、大きく技術の向上につながった。

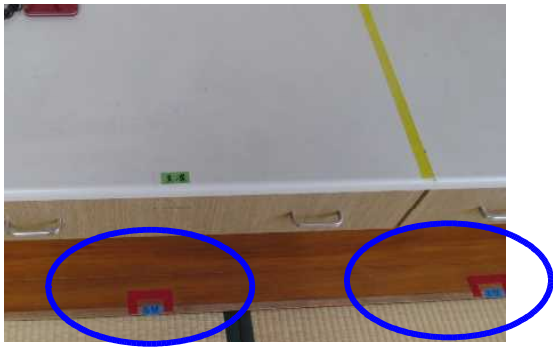


〈掃除担当者名と手順表の提示〉

後期掃除の記録	
氏名	室
場所	
見てほしいポイント	
月日 (記録番号)	コメント (見てほしいポイントを踏まえて)

- 掃除場所を記入する。☞
- 重点的に指導する☞
- ポイントを記入する。☞
- ポイントができたかを
確認、記録していく。☞

〈一人一箇所掃除の手立て・様子の記録用紙〉



〈拭き掃除をする位置をシールで示す〉



〈夏休みの取組 振り返り掲示〉

(4) ICT機器を活用した指導や学習会の実施や職員対象のICT機器研修

職員のICT機器研修を実施するに当たり、研修の内容についてアンケートを実施した。生活指導をより効果的に行うために、身近で実用的なスキルを身に付けたいという意見が多かったことから、パソコンで動画を編集する方法について研究部職員が講師となり、研修を行った。動画の編集用ソフトウェアのインストールの方法から、複数の動画をつなげてひとつの動画にする方法や、字幕を付ける方法等をプリントと電子黒板で説明し、解説を行いながら研修を行った。

この研修で身に付けた動画作成の技術を生かし、掃除の学習会においては、ロールモデルの生徒がトイレや風呂などの掃除に取り組む様子を撮影した動画を視聴することで掃除の仕方を学ぶ形とした。

また、職員が異なる手順で掃除をしている動画を2種類作成し、それを見ながら望ましい手順について理由を含めて考える機会をもった。それまでは一部の職員しかできなかった動画の編集が多くの職員ができるようになったことにより、指導の幅が広がり、生徒の興味・関心などにつながった。

その他にバーチャル・リアリティー機器を実際に使用し体験する職員研修も行った。初めて使用する職員も多かったが、実際にどのような機器であるのかを知り、寄宿舎の日常生活指導における活用方法についてアイデアを出し合うことで理解を深めることができた。



〈職員ICT研修の様子〉



〈職員バーチャル・リアリティー体験の様子〉



〈掃除学習会で電子黒板の使用〉



〈動画を見ながら水筒を洗う様子〉

5 成果と今後の方向性

(1) 成果

学習会のスタンプラリー形式は、目的と目標を可視化しゲーム的要素を加えたことで、見通しをもって楽しく学び達成感につながった。集団生活の場である寄宿舎だからこそ行うことのできる、目標別、縦割り、少人数編成のグループで、互いを認め合い安心して学び合える環境設定ができた。また、下校後に毎日行う水筒洗いの際に指導動画を活用する生徒もいた。自分のペースで繰り返し見て覚え、自ら行動する力と技術を身に付けることができた。その技術を体験入舎の生徒へ教える様子もみられた。

ロールモデルの生徒は、教えることで自分の知識や技術を再確認することができ、習熟した。教わる生徒は、手本から正しい掃除の仕方を身に付けることができた。結果として互いの技術力と自信の向上につながることができた。

仲間との学び合いの場で「できた」「分かった」「もっとやりたい」という理解と意欲につながり、掃除の取組に変化が見られたことから、年度末の実態把握では、一年次と比較して複数の生徒、多くの項目で技術を向上させた。

学習会や日常の掃除指導を通して、手順を覚え、技術が向上したことにより、どの掃除箇所であっても時間内に全行程を一人で行える生徒が増えた。また、「担当している掃除箇所以外の場所も掃除してみたい」と自ら職員に伝えるなど、掃除に対する意欲が向上した生徒も見られた。

長期休業前には、「家族が気持ちよくお風呂に入ることが出来るように風呂掃除を頑張りたい」と家庭に帰ってからも学んだ技術を生かそうとする姿や、家族のために自分ができることを行おうとする思いが育った様子が見られた。長期休業後にも保護者から「上手になっていて驚いた」、「年末の来客時、自分から進んでテーブルを拭いてピカピカにしてくれて助かった」、「進んで掃除を頑張ってくれて、おかげでいつもピカピカでした。ありがとうこれからもよろしく」、「突然の当番変更にも何一つ文句を言わず、快く引き受けてくれ感謝しています」とのコメントが寄せられた。また、夏季休業より冬季休業の方が進んで掃除を行ったり、より丁寧に行ったりした生徒が多く、家族の一員として役割を果たしている様子がうかがえた。

(2) 今後の方向性

2年間の取組を通して、掃除に対する意欲の高まりや技術の向上が見られた。習得した技術を一人一箇所の掃除や寄宿舎以外の場所でも生かすことができるように指導を継続していきたい。

動画での指導は生徒の興味や関心を引きつけるために有効であった。研修で習得した動画の編集方法を活用し、より分かりやすい動画を作成し指導に取り入れて、学習会や行事に生かしたい。

また、今年度意欲を高めることに有効だったスタンプラリー形式や、実態を考慮して生徒同士が学び合うロールモデルによる学習方法を、他の日常生活指導や活動でも取り入れ実践していきたい。

あ と が き

学校における研究の「ゴール」はどこにあるのでしょうか。私たちは、研究活動を通して得た知見や技術を共有し、それらを日々の授業の中で当たり前を活用していくことではないかと考えます。そのためには、研究の成果を平易な形でまとめるだけでなく、効率的に実行できるように仕組みをつくっていく必要があると思います。

さて、本校では、「児童生徒の『分かった、できた、もっと知りたい』を高める授業づくり」を研究主題に据え、生活単元学習を対象に、昨年度から2か年計画で研究を推進してまいりました。まとめの年となる今年度は、①地域資源を活用した魅力ある単元設定と学習活動の質の向上、②生活単元学習において達成する各教科等の目標及び内容の検討、③主体的な学習参加と効果的な学びを促すICT機器の活用などを実践課題として取り組みました。

この中で多くの協議を要したのは、生活単元学習において各教科等の目標を達成するための対象授業で育成する資質・能力の検討と評価でした。難儀はしたものの、取り組んだ教師たちから、「学習指導要領を根拠として個別の指導計画を作成し、これを基に授業を構成できた。」「育成する資質・能力を各教科等の目標や内容から考えることで、授業のねらいが明確になった。」など手応えを感じる声が多く聞かれました。限られた授業での検証でしたが、魅力ある単元を通して得られた児童生徒の成長を、各教科等の目標や内容の視点から「学び」として捉え直し、確かめられたことは、本研究の成果の一つだと思います。

では、この成果をどのように「普段使い」していけばよいのでしょうか。私たちは、一人一人の児童生徒の「学びの履歴」に着目し、育成を目指す資質・能力が確実に育まれ積み重なるように、日々のすべての授業において同様に実践できるよう計画したいと考えました。その具体策として、各教科について「観点別学習状況の評価規準」を定め、これに基づいて各教科等に係る「個別の指導計画」の改訂を全校職員で進めています。これにより、学習指導要領に示す各教科の内容の確実な実施、評価規準に基づく的確な評価と改善の促進、学びの履歴に基づいた段階的・計画的な指導の実施等が推進できると考えています。本研究の成果を切り口に、教育計画等の改善の方向性が定まり実行していることが、本当の成果の一つだと確信しています。

結びに、本研究に対し多くの示唆を含んだ御助言と励ましをいただきました特別支援教育課 主任指導主事 菊地真理先生、指導主事 進藤拓歩先生、工藤智史先生に心より感謝申し上げます。併せて、本紀要を御高覧いただきました皆様より忌憚のない御指導をいただきますようお願い申し上げます。

教 頭 佐藤 圭吾

研 究 同 人

校長 佐藤 玉緒
教頭 佐藤 圭吾
教頭 伊藤 孝義

研究部主任
小学部
中学部
高等部
寄宿舎

高橋 勝
大田 若奈
小林 生
筒井 仁洋
阿部 恵理
鷺谷 新目

佐藤 礼子
諏訪 寿昭
菊池 静香
三浦 陽香

【小学部】

工藤 未央
鈴木 梨沙
原田 公子
大森 智美
佐藤 明子
柏崎 久美子
豊田 里沙
佐藤 礼子
菊地 直枝
高橋 正義
大高 聡美
高橋 沙織
大田 若奈
渡邊 正徳
岡崎 直子
港 哲子
渡部 陽子
船山 真生
淡路 碧海
二田 葵

【中学部】

齊藤 舞子
大塚 佳樹
市川 堯
菊地 操
館岡 裕介
山田 育宏
安田 幸道
成田 彩瑛
五十嵐 俊輔
大山 裕子
小林 生
佐藤 洋美
原田 知加良
高橋 勝
杉森 利津子
田口 芽
村形 日都美

【高等部】

伊藤 健人
伊藤 友和
佐藤 真実子
澤井 裕子
鈴木 雄裕
村岡 静香
戸田 尚次
筒井 仁
鈴木 迪菜司
畠山 幸尊
佐藤 昭穂
諏訪 奈穂花
菅野 聖花
妻野 基子
橋本 朋子
平塚 格
小野 加奈子
佐藤 柊
館山 美樹
山谷 和也
由利 恵
門脇 正則
佐々木 豪
宮田 祥
中川 祥

【寄宿舎】

加藤 智子
阿部 洋
金釜 幸
菊池 静香
安保 友希
鷺谷 恵理
高橋 雅俊
佐藤 千鶴子
水谷 あすか
金子 聡子
大高 尚子
佐藤 初子
三浦 陽香
新目 源
太田 紗帆

研究紀要 しらかみ 第29号

令和5年3月 発行

発行者 秋田県立能代支援学校
〒016-0005 秋田県能代市真壁地字トトメキ沢135番地
TEL 0185-55-0691
FAX 0185-55-0681
E-mail noshiro-s@akita-pref.ed.jp
ホームページ <https://noshiroshien.ed.jp>